

第三十一條ノ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セララル

再度ニ於テハ同上ノ罰二等ヲ重加セララル可シ  
三度斯ノ如キ犯罪アルヲ證徴セラレタル者ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セララル

第千六百五十三條 若シ竊盜ノ時或ハ竊盜ノ犯圖ノ時ニ於テ兵器又ハ其他死セシメ或ハ不具ニスルヲ得可キ器械ヲ有シタル罪人ハ初度ニ於テハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚

隊内ノ編入ニ處セララル

再度ニ於テハ同上ノ罰二等ヲ重加セララル可シ  
再度以上斯ノ如キ犯罪アルヲ證徴セラレタル者ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セララル  
若シ兵裝セシ者竊盜ヲ爲スニ破壊ヲ以テシタルハ竊盜ニ就テ此條ニ確定スル所ノ罰一等ヲ重加セララル

第千六百五十四條 縱令此刑法第二百二十四條及ヒ

第九百二十五條ニ記載スル所ノモノニ類スル徒黨ヲ組織スルコトナシト雖モ竊盜ノ事ヲ談合シタル數



人ニテ竊盜ヲ爲シタルハ左ノ罰ニ處セラル但シ其數人又ハ其中ノ一人兵裝シタルハ及ヒ破壞ヲ以テ其竊盜ヲ爲シタルハ然リトス而シテ即チ其總テノ者ハ劫盜中ノ一種ニ就テ此前文第千六百四十一條ニ確定シタル罰ニ處セラル可シ(罰則第五百七條ノ第五項)第千六百五十五條若シ第千六百四十五條ヨリ第千六百五十四條ニ至ルノ各條ニ掲載シタル情實即チ罪科ヲ特別ニ重加ス可キ情實中ノ一モアラサル竊盜ノ罪ハ左ノ主義ヲ以テ確定セラル可シ即チ三百「ルーブル」以下ノ價直アル物品ヲ三度竊盜スル罪人

ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル三百「ルーブル」以下ノ價直アル物品ヲ四度竊盜スル罪人ハ此刑法第三十一條ノ第一等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル三百「ルーブル」以上ノ物品ヲ竊盜スル罪人初度ニ於テハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル



第一千六百五十六條 勸解罰則第百六十九條ヨリ第百七十二條ニ至ルノ各條ニ揭示シタル竊盜ヲ爲ス罪人貴族僧侶及ヒ貴顯都人タル者ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ其罰則ノ各條ニ原キタル罰ニ處セララル

第一千六百五十七條 背法ノ利益ヲ已レ或ハ或者ニ得セシムルノ故意ヲ以テ他ノ者ニ屬スル所有證書或ハ經界ノ圖面或ハ書册或ハ其他ノ證書或ハ文書ヲ奪攘スル者ハ其奪攘シタル文書ノ輕重及ヒ犯罪豫謀ノ多少並ニ事ノ情實ニ依リ身体及ヒ族位ニ屬シ

タル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十三條ノ第二等ニ依テ西比利諸縣ヲ除クノ外遠縣住所ノ放流或ハ此刑法第三十一條ノ第四等ニ依テ「トムスク」縣或ハ「トボリスク」縣住所ノ放流又ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セララル（第一千五百條）若シ其罪人法律ニ由テ施体刑ヲ免レサルキハ同上ノ等級ヲ以テ斯ノ如キ罰ノ代リニ此刑法第三十三條ノ第三等ニ依テ勞役舍内ノ禁錮或ハ此刑法第三十一條ノ第四等ニ依テ懲囚隊内ノ編入又ハ西比利謫所ノ放流ニ處セララル



第一千六百五十八條 縱令一時私人ノ處ニ在リシ者ナ  
リト雖モ裁判所或ハ行政廳ノ事件ニ屬ス可キ證書  
或ハ其他ノ官文書ヲ奪攘スル其罪人ハ官署ヨリ斯  
ノ如キ文書ヲ奪攘スルニ就キ此刑法第三百三條ニ  
確定シタル罰ニ處セラレ

第一千六百五十九條 罪科ヲ特別ニ重加ス可キ情實ナ  
キ竊盜ニ就テ確定ス可キ罰(第一千六百五十五條)ハ裁判所ノ見  
込ニ依テ一等或ハ二等重加セラレ可シ

第一 若シ寺院ノ財産ニアラサルモノヲ寺院小堂  
或ハ其他ノ拜堂ニ於テ聖物ヲ侮蔑スルヲナク竊

盜シ又ハ墓所或ハ死人ヨリ墳塚ヲ發掘スルヲナ

ク竊盜シタル時

第二 若シ夜間ニ於テ竊盜ヲ爲シタル時

第三 若シ竊盜ヲ遂ンカ爲メニ窓内ニ攀入シ壁柵

或ハ其他ノ塀垣ヲ乘越シ又ハ造意ノ口實ヲ以テ

宅内ニ突入シタル時

第四 若シ或者ノ糊口ノ爲メニ欠ク可ラサルモノ

ヲ知テ之ヲ竊盜シタル時

第五 若シ數人ノ約束ニ由ルト雖モ特別ノ徒黨ヲ

組織スルヲナク竊盜ヲ爲シタル時



第六 若シ官署或ハ衆會所ニ於テ窃盜ヲ爲シタル時

第七 若シ奴僕役夫下職人或ハ其他ノ者窃盜ノ爲メニ引誘シタル者ト約束及ヒ協力スルヲナク己カ居住スル主人ノ處ヨリ竊盜ヲ爲シタル時

第一千六百六十條 再度或ハ三度ノ窃盜ヲ爲セシ者ハ曾テ他ノ種類ノ窃盜ニ就キ現在ノ窃盜ヨリ重キ或ハ輕キ罰ニ處セラレシコトアルキハ己カ曾テ證徴セラレ及ヒ現在ノ事件ニ於テ證徴セラル、諸窃盜中ノ種類及ヒ情實ニ依テ尤重キ再度或ハ三度ノ窃盜

ヲ爲スニ就キ法律ニ確定シタル罰ニ處セラル可シ

第一千六百六十一條 窃盜或ハ其犯圖ニ與ミセシ者並ニ其犯者或ハ贓物ノ傍看人及ヒ隱匿人ハ犯黨ニ就キ此刑法第百十七條ヨリ第百二十八條ニ定メタル規則ニ原キテ罰ニ處セラル

第一千六百六十二條 縱令何等ノ徒黨ニモ屬セサル盜賊ナリト雖モ情ヲ知テ及ヒ常ニ之ニ窩所ヲ與フル者ハ此刑法第百三十一條ニ確定シタル罰ニ處セ

ラル

第一千六百六十三條 窃盜ノ罪人ニ從フ可キ罰ハ裁判



所ノ見込ニ依テ第百三十九條ニ原キ一等或ハ二等  
ノミナラス三等モ輕減スルヲ得可シ

第一 若シ竊盜ノ罪人自ラ好シテ贓物ヲ返還シタ  
ル時

第二 若シ窮迫ニ由ルカ或ハ糊口及ヒ勞役スルニ  
何等ノ方策モナキニ由テ竊盜ヲ爲シタル時

第三 若シ贓物ノ價直五十コペトク以下タル時

第千六百六十四條 諸贓物ハ其發露ノ後ヲ速ニ竊取  
セラレタル者ニ返還セラル可シ而シテ又罪人及ヒ  
此犯罪ニ與ミセシ者ハ此刑法第五十九條ノ規則ニ

原キテ其犯罪ヲ蒙リシ者ニ消費或ハ損傷シタル諸  
贓物ニ就テ返償セサル可ラス又己カ蒙ラシメタル  
損失ヲ拂フノ身位ナキ者ノ中ニテ民事管轄ノ懲囚  
隊内或ハ勞役舍内ノ勞役ニ處セラル、者ハ己レニ  
歸ス可キ賃金ヨリシテ其損失ヲ拂ハサル可ラス  
(注目)親子ノ間及ヒ夫婦ノ間ノ竊盜ニ關スル事件ハ  
竊盜セラレタル者ノ詞訟アルニ非サレハ始メスト  
ス

第二百十九條 寺院小堂納室又ハ常時及ヒ一時ノ寺  
庫ヨリ寺院ノ物品及ヒ貨幣ヲ竊取スルハ總テ寺物



竊取ト認知セラル縦令其寺庫ハ寺院地外ニ在リト雖モ猶ホ然リトス而シテ其寺物竊取ハ神聖ノ侮辱ト相合シ又ハ暴行或ハ破壊ト相合スルモハ其罰ヲ増加ス可シ(第八千六百二十八條第千六百三十八條及ヒ第千六百五十九條)

第二百二十條

一人或ハ數人ニテ寺院ニ擅入シ其寺

院ヨリ劫奪ヲ爲スニ就テハ縦令之カ爲メニ殺害ヲナサス及ヒ何人ニモ折傷ヲ加ヘスト雖モ其罪人ハ族權全部ノ剝奪及ヒ十二年ヨリ少カラス十五年ヨリ多カラサル時間ノ鑛山懲役ニ處セラル小堂ヨリ劫奪ヲ爲スニ就テハ若シ之カ爲メニ殺害

ヲナサス及ヒ何人ニモ折傷ヲ加ヘサルモハ族權全部ノ剝奪及ヒ十年ヨリ少カラス十二年ヨリ多カラサル時間ノ城寨懲役ニ處セラル

第二百二十一條

寺院或ハ寺院ノ納室ヨリ聖物即チ

儀式ヲ行フモニ用フル聖盃、聖匱、聖匕、寫冊又ハ其列ニ加ハル十字架、福音經、聖像、聖骨及ヒ畫龕、器覆、坐龕、机龕ヲ破壊ヲ以テ竊取スルニ就テハ族權全部ノ剝奪及ヒ十年ヨリ少カラス十二年ヨリ多カラサル時間ノ城寨懲役ニ處セラル若シ斯ノ如キ竊取即チ神聖ノ侮辱ト相合シタル竊



取ヲ爲スニ破壊ヲ以テセサルキハ族權全部ノ剝奪  
及ヒ六年ヨリ少カラス八年ヨリ多カラサル時間ノ  
製造場懲役ニ處セラル

第二百二十二條 寺院或ハ小堂ヨリ縦令斯ノ如キ聖  
物ニアラスト雖モ神祭ヲ行フノ時ニ用ヒテ神聖ト  
ナシタル物品即チ浴盤、神水鉢、柄杓、漑水具、見臺、甕祭  
服、香爐、萬燈及ヒ既ニ之ニ立タル蠟燭、釣燈及ヒ福音  
經ヲ除ク外ノ神祭書等ヲ破壊ヲ以テ窃取スルニ就  
テハ族權全部ノ剝奪及ヒ六年ヨリ少カラス八年ヨ  
リ多カラサル時間ノ製造場懲役ニ處セラル

若シ斯ノ如キ窃取ヲ爲スニ破壊ヲ以テセサルキハ其  
罰一等ヲ緩弛セラル

第二百二十三條 寺院或ハ寺院ノ納室ヨリセスシテ  
他ノ或ル寺庫ヨリ此前文第二百二十一條ニ掲載シ  
タル聖物ヲ破壊ヲ以テ窃取スルニ就テハ族權全部  
ノ剝奪及ヒ六年ヨリ少カラス八年ヨリ多カラサル  
時間ノ製造場懲役ニ處セラル  
若シ斯ノ如キ竊取ヲ爲スニ破壊ヲ以テセサルキハ  
其罪人ノ罰一等ヲ緩弛セラル

第二百二十四條 亦寺院或ハ寺院ノ納室ヨリセスシ



テ他ノ或ル寺庫又ハ小室ヨリ此前文第二百二十二條ニ名載シタル物品即チ神祭ヲ行フノ時ニ用ヒテ神聖トナシタル物品ヲ破壊ヲ以テ竊取スルニ就テハ族權全部ノ剝奪及ヒ四年ヨリ少カラス六年ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲役ニ處セララル  
 若シ斯ノ如キ物品ヲ小堂或ハ寺庫ヨリ破壊ヲ以テセスシテ竊取シタルキハ族權全部ノ剝奪ヲ以テ西比利中遠地ノ謫所放流ニ處セララル  
 第二百二十五條 寺院或ハ納室ヨリ之ニ屬スル貨幣及ヒ未タ聖像或ハ萬燈ニ立テサル蠟燭及ヒ其他神

祭ノ時ニ用ヒテ神聖トナサル物品ヲ破壊ヲ以テ竊取スルノ罪人ハ族權全部ノ剝奪及ヒ四年ヨリ少カラス六年ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲役ニ處セララル

縱令破壊ヲ以テセスト雖モ豫謀ノ故意或ハ故意ヲ以テ斯ノ如キ竊取ヲ爲シタルニ就テハ族權全部剝奪ノ上西比利謫所ニ放流セララル  
 若シ破壊ヲ以テセス又豫謀ノ故意或ハ故意ヲモ以テセスシテ斯ノ如キ竊取ヲ爲シタルキハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十



一條ノ第二等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊  
内ノ編入ニ處セララル

第二百二十六條 寺院或ハ納室ヨリセスシテ小堂或  
ハ別立ノ寺庫ヨリ寺院ノ所有物ニ屬スル貨幣及ヒ  
神祭ノ時ニ用ヒテ神聖トナサ、ル物品ヲ破壊ヲ以  
テ竊取スルニ就テハ其罪人族權全部ノ剝奪及ヒ西  
比利謫所ノ放流ニ處セララル

若シ破壊ヲ以テセスト雖モ豫謀ノ故意或ハ故意ヲ  
以テ斯ノ如キ竊取ヲ爲シタルハ其罪人身体及ヒ  
族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十

一條ノ第二等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊  
内ノ編入ニ處セララル

若シ又破壊ヲ以テセス又豫謀ノ故意或ハ故意ヲモ  
以テセスシテ斯ノ如キ竊取ヲ爲シタルモノト認知  
セララル、ハ其罰一等ヲ緩弛セララル

第二百二十七條 寺院ニ集金センカ爲メ聖像或ハ十  
字架ト共ニ展置シタル賽錢柱ヨリ貨幣ヲ竊取スル  
ニ就テハ前文第二百二十六條ニ於テ小堂或ハ別立  
ノ寺庫ヨリ彼ノ寺院ニ屬スト雖モ神祭ノ時ニ用ヒ  
テ神聖トナサ、ル物品ヲ竊取スルニ就キ確定シタ



ル所ノ罰ニ處セララル

第二百二十八條 若シ寺院ノ物品或ハ貨幣ノ貯存ヲ  
委任サレシ者又ハ神祭ノ時使用ノ爲メニ其物品ヲ  
委任サレシ者ニシテ其寺物ヲ竊取シタルキハ此犯  
罪各種ニ就キ此章ノ前文各條ニ掲載シタル罰ヲ此  
罪人ニ確定スルニ於テ其罰一等ヲ増加セララル

第二百二十九條 或ル人ヨリ蠟燭或ハ寺院又ハ寺寮  
及ヒ寺僧ノ經費トシテ寄進シタル貨幣ナリト雖モ  
未タ寺院ノ所有物ニ入ラサリシモノヲ私有トナシ  
タルニ就テハ他ノ所有物ヲ私有トナスニ就キ確定

シタル罰ニ處セララル(刑法第六百八十二條及ヒ罰則第七十

條七)

寺院ノ所有物ニ屬セサル貨幣或ハ物品ヲ寺院ヨリ  
竊取スルニ就キ若シ神聖ヲ侮辱セスシテ其竊取ヲ  
爲シタルキハ竊盜ニ就キ確定シタル罰ニ處セララル

(刑法第六百四十五條及ヒ其次條又  
罰則自第六十九條至第七十二條)

第二百三十條 寺物ヲ竊取スルノ罰ニ關スル此章ノ  
諸規則ハ魯國ノ法律ヲ以テ認許及ヒ保護ス可キ魯  
教及ヒ其他聖教ノ寺院小堂納室及ヒ寺庫ヨリ其寺  
物ヲ竊取シタル者ニ均ク及ホス可シ



第二百三十一條 此前文第二百二十一條及ヒ第二百二十二條ニ名載シタル聖物又ハ神祭ノ時ニ用ヒテ神聖トナリシ物品ナルヲ知リ之ヲ寺院納室或ハ其他ノ寺庫ヨリセスシテ私舍或ハ其他ノ場所ヨリ破壊ヲ以テ竊取スルニ就テハ特權全部ノ剝奪及ヒ西北利中遠地ノ謫所放流ニセラル

若シ又破壊ヲ以テセサルキハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第一等ニ依テ西北利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル

若シ此前文第二百二十一條及ヒ第二百二十二條ニ掲載シタル物品ヲ肆店細工場或ハ其他ノ場所ヨリ其未タ神祭ニ用ヒサル前或ハ未タ寺院ノ所有物ニ入ラサル前ニ竊取セシキハ竊盜ニ就キ確定シタル罰ニ處セラル（刑法第六百四十五條及ヒ其次條又ハ罰則目第六百六十九條至第七十二條）

第二百三十二條 寺院ニ集金スル爲メニアラスシテ貧人ヲ救助シ又ハ善事ニ使用スル爲メニ寺院及ヒ小堂ノ前ニ聖像及ヒ十字架ナク展置シタル賽錢柱或ハ賽錢箱ヨリ貨幣ヲ竊取スルニ就テハ此刑法第



千六百四十七條ニ於テ破壊ノ竊盜ニ就キ確定シタル罰ノ重キモノニ處セララル

又寺院ニ集收ス可キ貨幣ヲ賽錢柱及ヒ賽錢箱ヨリ竊取スルノ罪人モ同上ノ罰ニ處セララル但シ其罪人斯ノ如キ集收ノ豫定アルヲ知ラサル證アルキハ然リトス

然レモ若シ其金額ノ屬シタル寺院ヲ知ルノ人ニ非サレハ其竊取ヲ爲スヲ能ハサル時歟又ハ其事ニ就テ疑ヲ容ル可ラサル情實アルニ於テハ此前文第二百二十六條ニ確定シタル罰ニ處セララル

第二百三十三條 寺院小堂納室或ハ別立ノ寺庫ヨリ

セシテ或ル他ノ場所ヨリ寺院ノ所有物ニ屬シテ聖物トモ又神祭ノ時ニ用ヒテ神聖トナシタル物品トモ認知シ得サルモノヲ竊取スルニ就キ其罪人ハ此犯罪ヲ導キシ情實ニ依リ竊盜ニ就キ確定シタル罰中ノ一二處セララル（刑法第一千六百四十五條及ヒ其  
次條又ハ罰則自第百六十九條

至第百七十二條

第九百二十四條 兵盜或ハ放火スル爲メ又ハ贋擬ノ

貨幣或ハ贋擬ノ紙幣或ハ其他貨幣ニ代ル可キモノ又ハ紙幣其他ノ國札ヲ製造或ハ輸入スル爲メニ徒



黨ヲ組織スル者ハ縱令其組織シタル徒黨未タ何等ノ犯罪ヲ爲サスト雖モ族權全部ノ剝奪及ヒ四箇月ヨリ少カラス六箇月ヨリ多カラサル時間ノ製造場懲役ニ處セラル

斯ノ如キ徒黨ノ性質及ヒ豫定ヲ了知シテ其徒黨ニ加入セシ者ハ縱令之レニ由テ何等ノ犯罪ヲ爲サスト雖モ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利遠地ノ謫所放流ニ處セラル

斯ノ如キ徒黨ノ現存スルヲ知り且之ヲ官廳ニ告知シ得可クシテ其義務ヲ盡サ、ル者ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル

第一千二百六十四條 船舶ニ在ル人ノ中ニテ其船舶ノ航海ノ時ニ竊盜ヲ爲ス者ハ家宅ニ於テ爲シタル竊盜ニ就キ定メタル所ノ罰ニ處セラル



第六十二 監守自盜ノ罪

〇墾地利 千八百五十二年  
五月廿七日布告

第百八十三條 第百八十一條ニ掲載セル罪情ノ外凡

委任ヲ受ケタル財貸ヲ五十グルデン以上私賍スル

ニ於テハ亦之ヲ監守盜ノ重罪トス

凡債主へ入質トシテ質債者之ヲ守護スル物モ亦質

債者ノ監守物トシテ論ス可シ

第百八十四條 前條ノ如キ監守盜ハ六月以上一年以

下ノ重徒刑ニ處ス可シ然レモ其總計三百グルデン

以上ニ及フ者ハ一年以上五年以下ノ重徒刑トス尙



ホ特ニ加等ノ情狀アルニ於テハ其期ヲ五年以上十年以下トス

第百八十七條 各箇竊盜及ヒ監守盜共其犯罪者好ク悔悟シテ之レ其被害者ノ迫促ニ出ルト否トヲ問ハス然レモ本犯者ノ代リニ他人ノ之ヲ辨スルヲ許サス(裁判所若クハ他ノ官廳ニ於テ其裁判ヲ爲サ、ル以前其犯爲ニ依テ生シタル損害ヲ更ニ全ク辨償スルニ於テハ復タ其罪ヲ問フ可ラス  
右ノ規則ハ共犯ニ對スルモ亦其適用殊ナル所無シ  
唯竊盜若クハ監守盜ノ共犯者官之ヲ發覺セサル以

前ニ於テ其共犯ニ由テ生セシ損害ヲ全ク辨償スルニ於テハ其罪科盡ルトシ復タ之ニ歸罪ス可ラス

第百八十九條 其他右ニ掲載セサル竊盜若クハ監守盜及ヒ右兩罪ノ共犯併ヒニ凡夫婦間親子兄弟姉妹等ノ如キ一家同族ノ間ニシテ竊盜監守盜ヲ爲セシハ之ヲ違式罪トシ論ス可シ其條例ハ本書第二篇ニ之ヲ掲ク(第四百六十三條)

第四百六十一條 監守盜及ヒ詐偽モ亦第百八十一條第百八十三條第百九十九條第二百條及ヒ第二百一條中ニ於テ重罪ト爲セシ如キ甚キ犯爲ニ非サルモ



ノハ之ヲ違式罪トシ同上ノ刑ニ處ス可シ

第四百六十二條 前條ノ罪科處刑ノ長短及ヒ其寬嚴

ハ平素ノ品行違式犯罪中ノ偽計暴惡危殆自負ノ大

小ニ從テ之ヲ定ム可シ

第四百六十三條 夫婦間親子兄弟同居共通ノ活計ヲ

營ムキ互ニ竊盜若クハ監守盜ヲ相爲スキハ唯其家

長出訴ニ依テノミ第四百六十條ノ規則ニ準據シ處

刑スルヲアル可シ

但シ然ルキハ家長亦第五百二十五條ニ從テ刑セラ

ル可シ

第四百六十四條 凡竊盜監守盜ノ共犯第四百八十五條

中ノ規則ニ照シ未タ重罪ト爲ス可ラサル者ハ之ヲ

違式罪トス

第四百六十六條 第四百八十七條及ヒ第四百八十八條ニ

記載セル條例ハ斯ニ掲クル竊盜監守盜及ヒ共犯ノ

唯違式ニ止ル者ニ亦適用ス可キ事トス

○獨逸

第二百六十六條 左ノ人々ハ信義ヲ背キタル罪トナ

シ禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪シ或ハ兩刑ノ内一ニ



從ヒ唯禁獄ニ處スルヲ得可シ

第一 後見人監察人財産支配人贓物預人分散管財

人遺言狀施行人創業支配人創業トハ何事ニヨテ

ハ開寺開校開  
商等皆之ヲ云フ

若シ自ラ委托ヲ受ケ看守ス可キ人及ヒ其物件ニ

付故ラニ害トナル可キ事ヲ爲シタル時

第二 人ヨリ委狀ヲ受ケタル代理人委托シタル人

ノ權利等貸金銀及ヒ財産ヲ故ラニ害トナル可ク費

用シタル時

第三 檢地官評價人仲買人官ヨリ相場會社へ運漕

司商用世話人之レ仲買人尺度官檢査司之ハ金銀

ノ改役重モニ金銀試檢司關スル事船舶荷物支配人其餘職業

ニ付官廳ニ於テ誓詞ヲ爲シタル者若シ其媒合ヲ

以テ爲ス可キ事件ニ付其委托シタル者ノ爲メ故

ラニ害ヲ爲シタル時

若シ己レニ利ヲ得ル爲メ或ハ他人ニ利ヲ得セシム

ルノ目的ニテ信義ニ背キタル事ヲ爲シタルハ禁

獄ノ刑ノ外千「タ」レ「ル」ニ至ル罰金ニ處スルヲ得

可シ



○佛蘭西

第三百八十六條

第四 旅舎ノ主人御者舟師及ヒ其代人等ニ於テ其職業ニ付キ委托ヲ受ケシ物ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時

此等ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ驅役スル刑ニ處ス可シ

第四百條 第三項

負債ノ爲メ自己ニ於テ討還ヲ受ク可キ品物ヲ其管守中ニ亡失シ及ヒ竊取シ又ハ亡失及ヒ竊取セント

爲シタル者ハ第四百六條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

○埃及

第二百八十二條 左ニ記スル場合中ノ一箇ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ三年ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四 旅舎ノ主人水陸ノ運送人及ヒ此類ノ各人或ハ更ニ此等ノ者ノ使用ヲ受クル者其附託セラレシ物ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時



〇英吉利

凡奴婢家長ノ財物ヲ盜ム者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ十  
 四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ  
 處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ如シ年十六以下ノ  
 男子犯ス者ハ判事ノ適意ニ依テ打背罪ヲ加フ  
 若シ監守及ヒ捕吏等官ニ屬スル所ノ財物ヲ盜ム者  
 モ罪亦同シ

凡奴僕雇人家長ノ財物ヲ那移出納シテ己レニ入ル、  
 者ハ罪家長ノ財物ヲ盜ムニ同シ監守及ヒ捕吏那移  
 出納シテ己レニ入ル、者ハ監守及ヒ捕吏官物ヲ盜

ムニ同シ

若シ英國ノ銀行ノ算吏及ヒ奴僕雇人等文案ヲ捏造  
 シ財物ヲ那移シテ己レニ入ル、者ハ終身ニ至ル徒  
 罪ニ處斷ス

〇印度

第四百五條 財産若クハ財産ノ管理ヲ委任セラレ、  
 者不正ニ其財産ヲ私用シ又ハ己カ有トナシ或ハ法  
 ニ於テ定ムル所ノ委任ヲ盡スノ方法ニ違ヒ又ハ委  
 任ヲ盡スニ係テナシタル合法ノ契約(黙ト明ト)間



ハスヲ破テ其財産ヲ處分使用シ及ヒ故ラニ他人ノ是等ノ事ヲナスヲ縱ス者ハ皆背信任ノ罪ヲ犯スナ

第四百六條 背信任罪ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第四百七條 運送夫波止場取締若クハ貯庫取締財物ヲ委托セラレ其財物ニ係リ背信任罪ヲ犯ス者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百八條 雇人財物又ハ財物ノ管理ヲ委任セラレ其財物ニ係リ背信任罪ヲ犯ス者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百九條 官吏、銀行取締、商賈、代言師、商業代理、代辨牙僧、財物又ハ財物ノ管理ヲ委任セラレ其財物ニ係リ背信任罪ヲ犯ス者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

○普魯士千八百五十一年四月十四日ノ刑法

第二百二十五條 凡他人ノ動産ヲ監守ス可キ支配ス可キ還與ス可キ交與ス可キ(運搬荷物或ハ職人請合タル品物等)



是ノ如キナリ義務ヲ以テ之ヲ所有シ及ヒ保有シ而シテ其  
原有主所有主或ハ假有主「リベック」國ノ刑法書第百  
八十九條中ニ原有主及ヒ  
有權者ヲノ損害ト爲ル可キ方法ヲ以テ其動產ヲ他  
人ニ與ヘ或ハ賣拂ヒ或ハ典當ト爲シ或ハ費耗シ或  
ハ總テ他方ニ周旋スル者等ハ監守盜ノ罪犯ナリ

第二百二十七條 監守盜并ニ監守盜ノ未遂犯罪ハ一

月以上ノ禁獄ト有期ノ民權剝奪ヲ併科ス可シ  
若シ輕減ス可キ景況ヲ判然確認セシヤハ禁獄ノ時  
限ヲ一日迄ニ減スルヲ得可シ

註 (甲)「リベック」刑法書第百九十一條ニ於テハ此條

ニ代フルニ左ノ法ヲ以テセリ

監守盜ハ其贓物ノ代價ニ準シテ竊盜ノ同類ト做  
シ其罪ヲ處決ス可シ

註 (乙)曩時王國「ハンノーフェル」千八百四十年八月

八日ノ刑法書中確定セル所左ノ如シ

第三百四條 凡他人ノ動產ヲ所有シ或ハ保有シ而  
シテ不法ノ故意ヲ以テ之ヲ己カ固有物ト爲ス者

ハ監守盜ノ罪犯ナリ

第三百六條 千八百五十七年四月二十日ノ刑法書

中第十條



凡監守盜ハ通常竊盜ト同一ノ刑ニ處セラル可シ  
但シ拾取動産ノ刑ハ通常竊盜刑ノ二分一ニ迄輕  
減シ以テ處決セラル可シ

○薩克索 千八百六十八年  
十月改正ノ刑法

第二百八十七條 己ノ所有スル他人ノ動産ヲ自己或  
ハ他人ノ固有物トセンカ爲メニ其原有主或ハ其他  
ノ有權者ヨリ之ヲ妄ニ奪取スル者ハ監守盜ノ罪犯  
ナリ或ハ還付ノ約期アルト否トヲ問ハス通用貨幣  
又ハ其他同種類ノモノヲ以テ償ヒ得可キ物件ヲ(例

ハ此類ノ書籍及ヒ器物ヲ) 有權者ノ請求ニ應シ輒々  
以テ償ヒ得可キ等ヲ云フ) 延期ナク償ヒ得可キ目的ナクシテ之ヲ費耗セシ者  
ハ監守盜ノ罪犯ナリトス

商業本主ノ權ニ屬スル請求物(例ハ反物小間物酒肴等ノ掛ケ賣リ代價等ヲ)或ハ其財產物(店ニアル反物酒肴小間物唐物等ノ如キ是ナリ)ニ就キ貪  
利ノ目的ニ因リ其本主ノ損害ト爲ル可キ方法ヲ以  
テ之ヲ己レニ利スルルハ監守盜ト同視ス可キナリ  
第二百八十八條 他人ノ動産ヲ法ニ違ヒ典當ト爲シ  
タル者ハ監守盜ト見做ス可シ而シテ此典物ヲ假令  
受ケ出シ而シテ有權者ニ還與スルノ目的ヲ以テ之



ヲ爲シタルモ此重罪犯ハ其典物ノ最高價ニ準シ其罪ヲ決定セラル可シ此場合ニ於テ其動産ヲ有權者ノ請求ニ應シ輒テ償却ス可キノ定期迄ニ之ヲ受ケ戻シ得可キヲ確認スルヲナクシテ之ヲ典當ト爲シタル者ハ無論四ヶ月ヨリ多カラサル禁獄或ハ二年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ニ處セラル可シ之ニ反シ若シ典當ト爲シタルモノヲ受ケ戻シ而シテ還與ス可キ目的ニ加フルニ其確證ヲ判然表出シタル中ハ第三百三十條ノ第三第四及ヒ第五款ニ準シテ處決セララル可シ

第二百八十九條 凡官吏ノ監守盜ニ對シテハ非常竊盜ノ刑ヲ科シ又契約上ニテ委任セラレタル動産ノ監守盜ニ對シテハ通常竊盜ノ刑ヲ科ス可シ  
此他ノ監守盜ハ出訴ヲ待テ乃チ通常竊盜刑ノ二分一ヲ科ス

○換塞千八百四十一年九月十七日ノ刑法

第三百七十九條 監守若クハ支配ノ委託ヲ受ケシ他人ノ動産或ハ其他還與又ハ交付ス可キ(職業ヲ爲ス爲メニ預リタル動産又ハ運搬ス)原由アル義務ヲ委託サレタル可キ貨物等是ナリ



他人ノ動産ヲ其原有主若クハ他人ノ有權者ヨリ之ヲ略取スルノ目的ニ於テ之ヲ己ノ所有ト爲ス者ハ監守盜ノ罪犯ナリトス

第三百八十條 他人ノ動産ヲ所有スル者左ノ所行ニ

涉リシキハ監守盜ヲ全ク遂成セシト見做ス可シ

第一款 請求權ヲ有スル人ニ對シ其所有及ヒ保有ヲ拒ミシキ

第二款 財産ノ全部又ハ其一部ヲ費耗シ或ハ賣却

シ或ハ他人ニ授與シ或ハ特リ原有者ノ權利ニ屬スル所行ヲ其財産ニ就テ施行セシキ

但シ第二款中ニ論シタル場合ニ於テ委托物ニ就キ所有主ヨリノ請求セシニ當リ直ニ之ヲ全償シタル<sup>キ</sup>或ハ又代償ス可キ物産ノ監守盜ハ無罪ナリトス

○疇爾典不爾厄千八百五十八年七月三日ノ刑法

第二百八條

第一項 他人ノ動産ヲ所有シ或ハ保有シ而シテ法

ニ背キ之ヲ己ノ固有ト爲ス者ハ監守盜ノ罪犯ナリ

第二項 所有者原有者ニ對シ動産ヲ還與スルコトヲ



肯シセス或ハ其全部又ハ其一部ヲ賣却シ若クハ  
他人ニ讓與シ若クハ費耗シ或ハ其他特リ原有主  
ノミニ屬スル所行ヲ其動産ニ依テ漫ニ執行スル  
キハ即チ監守盜ノ罪犯ヲ成就セシト見做ス可キ  
ナリ

第二百十一條 監守盜并ニ監守盜ノ既行未成ハ一個  
月ヨリ少カラサル禁獄且有期民權剝奪ヲ以テ處決  
セララル可シ  
輕減ス可キ情狀判然セシキハ前項ノ刑期ヲ減シテ  
一日迄ニ至ルヲ得可シ

○不拉尼斯襪意厄 千八百四十年七月十日ノ刑法

第二百二十條 己ノ所有若クハ保有中ニ在ル他人ノ  
動産ヲ故意ヲ以テ法ニ背キ貪利ノ爲メ之ヲ己ノ固  
有ト爲ス者殊ニ其動産ヲ賣却シ或ハ全部若クハ一  
部ヲ費耗シ或ハ之ヲ固有ト爲サンカ爲メニ典當ト  
ナシ或ハ請求ス可キ權利者ニ之ヲ還與スルヲ肯  
ンセス或ハ之ヲ隱蔽スル者ハ左ノ刑ニ處セララル可  
シ  
第一款 若シ監守盜ノ賊五百[タ]ーレル以上ノ代價



ナルキハ徒刑ニ處ス可シ

第二百二十一條

第二款

(甲) 監守盜ノ賊十五「タ」レル以上ノ代價ナルキ「丁」ノ場合

(乙) 監守盜ノ賊三十「タ」レル以上ノ代價ナルキハ一年以上ナル徒場驅役ノ刑ニ處セラル可シ

第二百二十二條

第三款 一年以下ナル徒場驅役ノ刑ニ處セラル可シ

シ(乙)ノ場合

第二百二十條ヨリ第二百二十二條ニ至ル間ニ論シタル情狀ノ一モ顯ハレサル監守監ニ在テハ警察禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

○薩克撒亞爾丁不爾厄千八百四十一年五月三日ノ刑法

第二百四十二條 他人ノ動産ヲ所有又ハ保有或ハ之

ヲ差配シ而シテ何レノ方法ヲ論セス其動産ヲ以テ一ノ事業ヲ企テタルカ爲メ之ニ因テ不法ニ自己ノ固有ト爲セシ「丁」ノ自然發覺シ或ハ負擔セン義務上ヨリ發覺シタル者ハ動産代價ノ總計ニ準シ平常竊



盜ノ罪科ニ處セラル可シ

○昂不爾厄千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第百八十七條 他人ノ動産ヲ監守又ハ支配ヲ委任セラレ或ハ其他之ヲ還與シ又ハ取次可キノ契約ニ原キタル義務ヲ以テ委任セラレ而シテ違法ノ目的ニ於テ之ヲ己ノ固有ト爲ス者即チ其動産ノ全部若クハ一部ヲ費耗シ或ハ賣却シ或ハ典當ト爲シ或ハ他方ニ移シ或ハ請求ス可キ權理者ニ之ヲ還與スルヲ背ンセス或ハ之ヲ隱蔽スル者左ノ如キ場合ニ在

テハ五年以下ノ羈絆ノ刑ニ處ス可シ

第一 若シ監守盜ノ贓二百タレル以上ノ代價ナ

ルル片

第二 若シ監守盜ノ贓二十タレル以上ノ代價ナ

ルル片及ヒ其他ノ場合(第五款ノ場合ナル片)

上項ノ外他ノ監守盜并ニ拾取動産ヲ法ニ背キ己ノ固有ト爲ス者ハ一年以下ノ禁獄ニ處シ或ハ四百タレル以下ノ罰金ヲ科ス可シ

凡刑ヲ擬決スルニ當テハ被害者ノ被リタル損害上ニ殊ニ注意ヲ要ス可シ而シテ若シ監守盜ノ犯人其



損害ヲ辨償シタルキハ之ヲ酌量輕減ス可キ原因ト  
做ス可シ

凡他人ノ金銀及ヒ其他代償ス可キ動産ヲ費耗セシ  
ニ當リ若シ不法ノ故意アルニ非スシテ定約時限ニ  
至リ輒チ有權者ノ請求ニ應シ直ニ之ヲ償却ス可キ  
ノ確證ヲ表セシキ或ハ若シ定限ノ約ナキキ此ノ如  
キ所行ヲ爲シタルキハ監守盜ニアサラルナリ

○巴威也拉 千八百六十一年十一月十日ノ刑法

第二百九十三條 凡委托ヲ受ケ或ハ職業上ニ就テ任

セラレタル他人ノ動産ヲ自己若クハ他人ノ爲メニ  
不法ニ其全部又ハ一部ヲ賣却シ或ハ典當ト爲シ或  
ハ費耗シ或ハ其他ノ方法ヲ以テ己ノ固有ト爲ス者  
ハ監守盜ノ罪犯ナリトス  
監守盜ハ未遂犯罪ナルキモ亦重輕罪或ハ違令罪ニ  
依テ處決ス可シ

○瓦爾敦巴爾厄 千八百三十三年三月一日刑法

第三百四十四條 己ノ所有中ニ在ル他人ノ動産ヲ法  
ニ背キ己ノ固有ト爲ス者或ハ之ヲ賣却シ或ハ其全



部若クハ一部ヲ費耗シ又己ノ固有ト爲スノ目的ニ於テ之ヲ典當ト爲シ或ハ其請求ス可キ權理アル人ニ對シ之ヲ還與スルヲ肯ンセス或ハ之ヲ隱蔽スル者ハ監守盜ノ罪犯ナリトス

千八百四十九年八月十三日ノ律書中

第二十九條 監守盜（刑法書第三百四十四條）ハ被害者若クハ代理

ス可キ代言者ノ呈訴ヲ待テ乃々其罪ヲ糾問シ且刑ニ處ス可シ其他ハ之ヲ除ク

若シ本主ヨリ官署へ呈訴セサル中ニ辨償シタルハ其罪ヲ問ハス

○巴敦千八百四十五年三月六日及  
五月十一日ノ刑法

第四百條 凡他人ノ動産ヲ監守若クハ支配ノ委任ヲ

受ケ或ハ之ヲ還與ス可ク若クハ取次可キノ約束ニ

原キタル義務ヲ以テ委任セラレ而シテ其之ヲ請求

ス可キ權理アル人ニ償却セスシテ略取シ以テ己ノ

固有ト爲ス者ハ監守盜ノ罪犯ナリ

第四百三條 監守盜ハ賊ニ應シ左ノ如ク處刑セラレ

可シ

第一款 二十五「ギユルデン」以下ノ監守盜ハ四個月



以下ノ禁獄ノ刑

第二款 二十五「ギユルデン」以上三百「ギユルデン」以

下ノ監守盜ハ四週間以上ノ禁獄ノ刑或ハ二年以  
下ノ徒場驅役ノ刑

第三款 三百「ギユルデン」以上ノ監守盜ハ四年以下  
ノ徒場驅役ノ刑其最重ナル場合ニ於テハ一年以  
上五年以内ノ徒刑

○不來梅

千八百六十  
八年ノ草案

第三百九十條 委託セラレタル他人ノ動産ヲ自己或

ハ他人ノ爲メニ不正ナル利益ヲ營ムノ目的ニ依リ  
其全部若クハ一部ヲ賣却シ或ハ典當ト爲シ或ハ費  
耗シ或ハ其他ノ方法上ニ於テ己ノ固有ト爲ス者ハ  
十四日間以上三年以下ノ禁獄ニ處ス可シ其輕キ者  
ニ在テハ十四日間以下ノ禁獄ニ處シ或ハ一百「ター  
レル」以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第三百九十一條 凡監守盜ノ贓五十「ターレル」以上五  
百「ターレル」以下ナルキハ三個月以上ノ禁獄ニ處シ  
其輕キ場合ニ於テハ四週間以上ノ禁獄ニ處ス可シ  
凡贓計五百「ターレル」以上ニ至ルキハ十年以下ノ徒



刑ニ處シ其輕キ場合ニ於テハ六ヶ月以上ノ禁獄ノ刑ニ處ス可シ

○墾地利 千八百六十七年ノ草案

第二百七十一條 已レニ委托セラレ或ハ商業ノ爲メ

ニ所有セル他人ノ動産或ハ偶然ニ因リ或ハ詐偽取財ヲ除キ他ノ不分明ナル場合ニ於テ己ノ所有ト爲シ或ハ發見シタル他人ノ動産ヲ自己又ハ他人ノ爲メニ不法ナル利益ヲ營ム可キ目的ヲ以テ之ヲ賣却シ或ハ費耗シ或ハ典當ト爲シ或ハ其他ノ方法上ニ

テ之ヲ己ノ固有ト爲ス者ハ監守盜ノ罪犯ナリ

○丟列支 千八百六十六年ノ草案

第一百七十五條 凡他人ヨリ委托セラレタル動産ノ全

部若クハ一部ヲ賣却シ或ハ典當ト爲シ或ハ費耗シ或ハ其他ノ方法上ニテ自己又ハ他人ノ爲メニ不正ナル利益ヲ營ム可キ目的ニ於テ之ヲ己ノ固有ト爲ス者ハ監守盜ノ罪犯ナリトス

第一百七十七條 第一百七十六條ノ制定ニ照準ス可ラサル監守盜若シ其贓價五百フランク以上ナルキハ三



年以下ノ徒刑或ハ工役ノ刑ニ處ス可シ若シ五百「フ  
ラシク」若クハ其以下ナルキハ三年以下ノ工役ノ刑  
若クハ禁獄ノ刑ニ處ス可シ其至輕ナル場合ニ於テ  
ハ單ニ五十「フラシク」以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第六十三 詐偽財ヲ奪フノ罪

○佛蘭西

第四百五條

千八百六十三年五月  
十三日左ノ如ク改ム 偽リノ姓名ヲ用ヒ

或ハ偽リノ身分ヲ稱シ或ハ偽リノ起作無實ノ威權  
偽リノ信據ヲ人ニ證シ示ス可キ爲メ詐計ヲ用ヒ又  
ハ人ヲシテ無實ノ成功及ヒ無根ノ事故ヲ希望セシ  
メ或ハ畏怖セシム可キ爲メ偽計ヲ用ヒテ人ノ所有  
スル金銀動産義務ノ證書契約書手形約定書算還ノ  
證書ヲ已レニ渡サシム或ハ渡サシメント試ミ爲シ  
且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ奪ヒ或



ハ奪ハント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルコトヲ得可シ但シ此規則ト其犯人ニ贋造偽造ノ重罪アル時更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ル、コトナカル可シ

○獨逸

第二百六十三條 自ラ不正ノ利ヲ得ントシ或ハ他人ニ得セシメントスルノ目的ニテ不實ナル事ヲ契言シ又ハ實ナル事ヲ變シ或ハ之ヲ隱匿シテ疑惑錯誤ニ乘シ教唆鼓動シ又ハ之ヲ繼續シテ以テ他人ノ財産ニ害ヲナシタル者ハ詐偽ノ罪トナシ禁獄ニ處シ其余千「マルク」ヨリ多カラサル罰金ニ處シ尙ホ公權ヲ行フコトヲ禁ス可シ若シ酌量輕減アルルハ其刑ヲ罰金ニ折算スルコトヲ得可シ之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ



若シ親族後見人教師又ハ奴僕雇直チ與ヘ使役スル人及ヒ寄食生徒ニ對シ詐欺ノ罪ヲ犯シタルキハ其訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

第二百六十四條 獨逸裁判所ニ於テ詐欺犯罪ニヨリ處決セラレタル後再ヒ其同種ノ輕罪ニ因テ處決セラレタルモノ更ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルキハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ尙ホ五十「ターレル」ヨリ二千「ターレル」ニ至ル罰金ニ處ス可シ  
若シ酌量輕減アルキハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ其余千「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

シ

第二百四十五條ニ記シタル條々モ亦同シク通シテ用フ可シ

第二百六十五條 詐欺取財ノ罪ヲ犯サントスル目的ニテ火災保險ヲ爲シタル物件ニ放火シ又ハ其同等ナル目的ニテ船又ハ其積荷及ヒ其運賃ニ付キ請合ヲ爲シタル船舶ヲ故ラニ淺瀬ニ傾膠シ又之ヲ沈沒セシメタルモノハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ仍ホ五十「ターレル」ヨリ二千「ターレル」ニ至ル罰金ニ處ス可シ



若シ酌量輕減アルモハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ  
處シ仍ホ千「ター」レルニ至ル罰金ニ處ス可シ

○白耳義

第四百九十六條 凡無實ノ事ヲ告ケ詐謀ヲ巧ミニシ  
人ヲ信セシメ因テ錢貨財物借用券請取券拂方證左  
等ヲ欺キ取ル者ハ一月ヨリ五年迄ノ獄ニ處シ三十  
六「フランク」ヨリ三千「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ  
且第三十三條ノ奪權ニ處スル「アリ」

第五百九條

凡空名ヲ虛設シ或ハ負債者ナラサル人

或ハ拂ヒ能ハサル人或ハ拂フヲ許諾セサル人ヲ名  
宛トシ爲替切手ヲ造リ錢貨財物ヲ得ル者ハ一月ヨ  
リ二年迄ノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ三千「フラ  
ンク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ

然レモ其先方ニ於テ此金高ヲ拂フ乎又ハ爲替タル  
者此金高ヲ拂フハ其先方ヨリ訴へ出ルニ非サレハ  
之ヲ裁判スルヲ得ヌ又己ニ裁判ニ附スルモ之ヲ  
停ムルヲ要ス可シ

若シ其先方ヨリ訴フルモ右犯人ヲ十五日ヨリ三  
月迄ノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ三百「フランク」



迄ノ罰金ヲ命ス可ク或ハ此一刑ニ處ス可シ

○埃及

第三百二條 何人ニ限ラス詐計ヲ用ヒ又ハ人ヲシテ偽リノ起作或ハ偽リノ事柄アルヲ信セシム可キ所爲ヲ行ヒ又ハ無根ノ利益ヲ望マシメ或ハ嘗テ一旦欺キ取リシ金高ノ償還ヲ望マシム可キ所爲ヲ行ヒ又ハ偽リノ義務アリ或ハ偽リノ義務ノ解除アリシヲ信セシム可キ所爲ヲ行ヒ又ハ偽リノ姓名或ハ偽リノ身分ヲ稱シテ金高動産義務ノ證書義務ノ解除

ノ證書及ヒ其他ノ財産ヲ己レニ渡サシメ他人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ欺キ取りタル者ハ三月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「ピアストル」ヨリ少カラス五千「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

○英吉利

凡詐欺シテ人ノ財物ヲ取ル者ハ輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ



若シ人ヲ詐欺誘誑シテ金銀ノ證書ヲ作為收受押印  
或ハ破壊セシメ若クハ他人ノ姓名ヲ書寫セシムル  
者ハ並ニ罪亦同シ

凡海陸軍ノ士卒若クハ英國ノ銀行ニ金ヲ寄託スル人  
或ハ商社等ヲ冒名シテ俸金若クハ利益分配等ヲ詐  
欺シ取ル者ハ重罪ニ坐シ二年ニ止ル入獄ニ處シ若  
クハ苦役ヲ加へ或ハ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處  
ス

凡家産器物等ヲ賣却若クハ典當シテ其故券遺書證書  
等ヲ消抹破壊シテ他人或ハ其子孫ヲ詐欺セントス

ル者ハ輕罪ニ坐シ贖罪或ハ二年ニ過キサル入獄ニ  
處シ若クハ苦役ヲ加へ或ハ贖罪入獄ヲ併用ス

○普魯士千八百五十一年四月十四日ノ刑法

第二百四十一條 貪利ノ目的ニ於テ無根ナル事實ヲ  
陳述シ或ハ有根ナル事實ヲ變更シ又ハ其事實ヲ打  
消シ以テ他人ノ疑惑ヲ起シ之ニ依テ其財産ヲ損害  
スル者ハ詐欺ノ罪犯ナリトス

第二百四十二條 詐欺并ニ詐欺未遂犯罪ハ一年以上  
ノ禁獄且同時五十「メートル」以上一千「メートル」以下



ノ罰金ヲ科シ并ニ有期ノ民權剝奪ヲ併科ス可シ  
若シ輕減ス可キ情狀ノ判然タルキハ一週間以下ノ  
禁獄ノ刑或ハ單ニ五「ターレル」以上ノ罰金ノミヲ科  
スルヲ得可シ

○薩克索 千八百六十八年十月一日改正ノ刑法

第二百八十四條 無根ナル事實ノ計畫或ハ有根ナル  
事實ノ秘隱或ハ事情ニ從ヒ正實ト信認シ得可キ事  
件ヲ以テスルト否トヲ問ハズ詐欺ニ依リ某人ニ損  
害ヲ加ヘ自己又ハ他人ノ爲メ不法ノ利益ヲ營ム者

ハ詐欺ノ罪犯ナリトス

第二百八十五條 特別ニ掲載シタル各場合即チ偽造  
證書ヲ用フルニ依テ行ヒシ詐欺ヲ除クノ外ハ總テ  
通常竊盜ノ罪ト同刑ニ處ス可シ

○挨塞 千八百四十一年九月十七日ノ刑法

第三百九十一條 某人ノ權利ヲ妨害シ或ハ自己又ハ  
他人ノ爲メニ不正ナル利益ヲ營ムノ目的ニ於テ特  
別ノ義務ヲ損害シ知リツ、無根ノ事實ヲ確實ナリ  
ト陳言シ或ハ有根ノ事實ヲ秘隱シ若クハ打消シ或



ハ又特別ノ義務ヲ損害スルコトヲ偽計ヲ施シ以テ  
詐偽ノ所行ヲ企テ或ハ傳聞ニ依リ起生セシ某人ノ  
疑惑ヲ養成シ以テ損害ヲ加ヘシ者ハ詐欺取財ノ罪  
犯ナリトス

第三百九十三條 詐欺ニ依テ得タル物品ノ代價總計  
十五「ギユルデン」以下ニシテ其所爲ニ於テハ決シテ  
第三百九十五條及セ第三百九十七條中ニ掲ケタル  
如キ現狀ナキハ輕詐欺取財ト爲シ禁獄ノ刑ニ處  
ス可シ

第三百九十四條 前條ノ如キ輕詐欺ニ見做ス可ラス

亦第三百九十七條中ニ記載セシ罪狀ノ一ニモ依ル  
可ラサル詐欺ハ單純詐欺取財ト爲シ三年以下ノ懲  
治監或ハ五年以下ノ徒刑ニ處ス可シ  
然レモ詐欺取財ノ初犯ニシテ其得タル物品ノ代價  
五「ギユルデン」以下ノハ禁獄ノ刑ニ處ス可シ

○丟靈厄斯的丁 千八百四十九年ノ刑法

第二百三十六條 某人ノ財産ニ損害ヲ加ヘンカ爲テ  
不法ニ其人ノ迷信ヲ起シ或ハ其迷信ヲ用ニ供シ而  
シテ其損害ヲ加フ可キ目的ヲ達シ得タル者ハ詐欺



取財ト爲シ其加ヘタル損害ノ大小(詐欺ニ依テ得タル利益ノ多寡ヲ指ス)  
 ニ應ジ通常窃盜ノ刑ヲ以テ處ス可シ  
 此場合ニ在テハ犯者自己又ハ他人ノ爲メニ利益ヲ  
 營マンコトヲ企望セシト又ハ否ラサルトヲ問ハス渾  
 テ之ヲ同一ニ見做ス可シ然レモ其利益ヲ謀ルノ目  
 的ナキ場合ニ在テハ禁獄ノ刑ニ代フルニ相當ノ罰  
 金ヲ科スルコトヲ得可シ

第二百三十八條 若シ某人己ノ不注意ヨリシテ疑惑  
 ナ起シ而シテ之ヲ幸トシ用ニ供セントスル者ハ他  
 ノ施爲ニ及ハスシテ自然ニ之ヲ供用シタルキハ詐

欺ノ犯罪トシテ罰セサルナリ  
 或ハ底タニ一般ノ喝采說話ニ依テ某人ノ疑惑ヲ萌  
 醸セシキハ前項ト同ク亦詐欺ノ犯罪トシテ罰セサ  
 ルナリ  
 契約ニ就テノ詐欺罪トシテ刑ニ處ス可キモノハ其  
 契約ヲ結ビシ時ノ事情ニ從ヒ之ヲ觀ルニ其迷信者  
 若シ他ノ一方ノ處置不信ナルヲ察知セシニ於テハ  
 其約ヲ全ク取結ハサリシ乎又ハ他法ヲ以テ取結フ  
 可キコト必然ナリトノ狀ヲ明認セシ時ニ限ルナリ  
 結約ニ就テノ詐欺犯罪ハ其一方ヨリ呈訴スルヲ待



テ糺弾シ且刑ニ處ス可キナリトス

○不拉尼斯薇意厄千八百四十年七月十日ノ刑法

第二百二十四條 財産ニ損害ヲ加ヘンカ爲メ或ハ貪欲及ヒ犯罪上ノ目的ニ於テ不法ニ他人ノ迷信ヲ起成シ若クハ之ヲ用ニ資供スル者ハ左ノ刑ニ處決ス可シ

第一款 若シ損害即チ詐欺ニ依テ得タル利益五百「ターレル」以上ニ至ルキハ徒刑

第二百二十五條 前ノ續キ

第二款 左ノ所行ニ涉ルキハ一年以上ノ徒刑ニ處ス可シ即チ

(甲) 損害即チ得タル利益ノ高十五「ターレル」以上ニ至ルキ

(乙) 詐欺ニ依テ得タル利益即チ加ヘタル損害ノ高三十「ターレル」ヨリ以上ニ至リタルキ

第二百二十六條 前ノ續キ

第三款 左ノ所行ニ涉リタルキハ一年以下ノ徒刑ニ處ス可シ

(甲) 詐欺ニ依テ得タル利益即チ損害ノ高二「ター



レル以上ニ至リタルキ  
(乙) 詐欺ニ依テ得タル金額五ターレル以上ニ至  
リタルキ

詐欺取財ノ犯罪第二百二十四條乃至第二百二十六  
條ニ掲ケシ情狀ノ一箇ニ從ヒ加重ス可キ理由ナキ  
者ハ之ヲ警察禁獄ノ刑ニ處ス可シ

第二百二十七條 契約ニ就テノ詐欺取財ニ問フ可キ  
條例ノ分界

契約ニ就テノ騙欺取財トシテ刑ニ處ス可キモノハ  
騙欺セラレシ人其被リタル損害ニ就キ取戻ノ請求

ヲ爲セシキ直ニ之ヲ償ヒ得サルキニ限ルナリ

○薩克撒亞爾丁不爾厄 千八百四十一年  
五月三日ノ刑法

第二百四十五條 無根ノ事實ヲ知リツ、確實ナリト  
發言スル者或ハ正實ヲ告知ス可キ義務アル關係中  
ニ在リナカラ有根ノ事實ヲ包秘シ又ハ打消ス者或  
ハ他人ノ如此所業ヲ爲スヲ知リナカラ之ヲ資用シ  
テ某人ニ損害ヲ加ヘタル者或ハ自己又ハ他人ノ爲  
メニ不法ナル利益ヲ營ミシ者ハ若シ其物品有價ノ  
モノナレハ常盜ノ刑ニ處シ若シ其物品價ナキモノ



ナレハ三個月以下ノ禁獄或ハ六年以下ノ工役ノ刑ニ處ス可シ又貪欲ノ目的ナキコト判然タル場合ニ於テハ裁判官ハ禁獄ノ刑ニ換フルニ相當ノ罰金ヲ科スルヲ得可シ又第二百三十七條乃至第二百三十八條中ニ記シタル關係(親屬間ノ竊盜及ヒ食物竊盜中ニ在テ詐欺取財ノ所行ヲ爲スニ於テハ此兩條ノ條例ニ準シテ處決ス可シ

○盧卑略 千八百六十三年七月二十日ノ刑法

第二百六條 無根ノ事實ヲ陳言シ或ハ有根ノ事實ヲ

包秘シ又ハ打消シ之ニ依テ某人ノ疑惑ヲ萌醸シ以テ自己ノ利益ヲ營ミ或ハ貪欲ノ目的ヲ以テ某人ニ損害ヲ加フル者ハ詐欺取財ノ犯罪ナリトス

第二百七條 詐欺取財ノ犯罪若シ第二百八條乃至第二百十條ノ旨意ニ從フ可ラサルキハ左ノ如ク處決ス可シ

第一款 若シ物品有價ノモノナレハ第七十八條(通常竊盜ノ刑)ノ定規ニ照準シ處決ス可シ

第二款 若シ物品價ナキモノナルキハ六ヶ月以下ノ刑ニ處ス可シ



〇昂不爾厄千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第百八十九條 自己又ハ他人ノ爲メニ不法ナル利益ヲ營マンカ爲メニ無根ノ事實ヲ虚捏シ或ハ有根ノ事實ヲ打消シ或ハ偽計詐術ニ依テ疑惑ヲ醸萌シ或ハ之ヲ養成シ某人ノ財産ニ損害ヲ加フル者ハ左ノ刑ニ處ス可シ

第一款 若シ詐欺ニ依テ得タル利益五十「ターレル」以上ニ至ルキハ五年以下ノ徒刑ニ處ス可シ

第百九十條

第二款 四週間以上三年間以下ノ羈絆ノ刑(徒刑若クハ禁獄)

第三款 若シ詐欺ニ依テ得タル利益五十「ターレル」以上ニ至ルキハ一年ヨリ多カラサル羈絆ノ刑ニ處ス可シ

第四款 他ノ諸テノ場合ニ於テハ六閱月以内ノ禁獄若クハ二百「ターレル」以下ノ罰金ニ處ス可シ

〇巴威也拉千八百六十一年九月十日ノ刑法

第三百十四條 (詐欺取財ノ解義)



自己又ハ他人ノ爲メニ不正ナル利益ヲ營マントスルノ目的ヲ以テ無根ノ事ヲ作爲シ或ハ有根ノ事實ヲ打消シ或ハ偽計詐術ニ依テ疑惑ヲ萌醸シ或ハ之ヲ養成シ而シテ某人ノ財産ヲ損害スル者ハ騙欺取財ノ犯罪ナリトス  
詐欺取財ノ犯罪ニ在テハ輕罪或ハ違式罪ノ未遂罪モ亦刑ニ處ス可シ

第三百十五條 (詐欺取財ノ刑)

凡第三百十六條第三百十九條及ヒ第三百二十條ノ定規ヲ除クノ外亦詐欺取財ノ犯罪ニ就キ左ノ如ク

處ス可キモノアリ即チ

第一款 若シ詐欺ニ依テ得タル利益ノ總計十ギユルデシ以上ニ至ラスシテ其犯者未タ騙欺取財或ハ偽造ノ犯罪ニ就テ處刑セラレシコトナキモノナレハ禁錮ノ刑ニ處ス可シ但シ此刑ハ時アツテ加重スルヲ得可キモノナリ或ハ百五十ギユルデシ以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二款 其他ノ場合ニ於テハ一個月以内ノ禁獄ニ處ス可ク而シテ此刑ハ五百ギユルデシ以下ノ罰金ヲ併科スルヲ得可キモノナリ若シ詐欺ニ依テ



得タル金高千「ギユルデン」以上ニ至ルキハ八年以下ノ徒刑ニ處ス可シ

○瓦爾敦巴爾厄千八百三十九年三月一日ノ刑法

第三百五十一條 (甲) 詐欺ノ解義

他人ノ權理ヲ損害スルカ爲メ知リツ、無根ノ事實ヲ確的ナリト陳言シ或ハ有根ノ事實ヲ打消シ又ハ之ヲ秘包シ之ニ依テ他人ニ損害ヲ加ヘ或ハ己ノ利益ヲ營ム者ハ詐欺取財ノ罪犯ナリトス

第三百五十二條 (乙) 詐欺罪ノ刑

他人ニ損害ヲ加ヘシ詐欺若シ此刑法書中ニ於テ刑ニ處ス可キ犯罪外ノモノニ非サレハ其加ヘタル損害ノ高ニ應シ禁獄ノ刑ニ處ス可シ  
但シ詐欺ニ依テ不法ノ利益ヲ得ント企圖シ而シテ之ヲ遂成シタルキハ竊盜罪ニ就テノ定規(第三百二十一條第三百二十二條)ニ從テ處ス可シ

契約事件ニ關シ不法ノ詐欺アルカ爲メ之ヲ民法上ノ原理ニ照シ破約或ハ要償ノ訟ヲ爲シ得可キ場合ニ在テハ刑法ニ於テ問ハサルナリ若シ契約者ノ一方格外ノ詐術ヲ施シ他人ヲ誑誘シテ結約セシキハ



刑法ニ於テ其罪ヲ問フ可キナリ  
契約ニ關スル騙欺ノ罪ニ就テハ被害者ノ訴ヲ待テ  
乃チ之ヲ處決スルナリ

○巴敦 千八百四十五年三月六日同  
五十二年二月五日ノ刑法

第四百五十條 (貪欲ノ目的ヲ以テセル詐欺ノ罪犯)  
偽造犯罪(第三十篇)ヲ除クノ外貪欲ナル目的ヨリ出  
テ偽計ヲ以テ有根ノ事實ヲ打消シ或ハ故意ヲ以テ  
有根ノ事實ヲ秘包シ之ニ依テ他人ヲ誑誘シテ己ノ  
有スル特別ノ義務ヲ害シ知リツ、財産ヲ損害ス可

キ所行若クハ廢業ニ至ラシムル者ハ詐欺取財ノ犯  
罪ニ依テ論シ之ヲ監守盜(第四百三條)ノ刑ニ處ス可  
シ

第四百五十一條 他人ノ自己ニ擡起セシ疑惑ヲ之ヲ  
款待シ而シテ貪欲ナル目的ヲ以テ他人ノ財産ヲ損  
害センカ爲メニ其疑惑ヲ己ノ資用ニ供スル者ハ前  
第四百五十條ニ於テ處決セシ刑ノ四分三ヲ科ス可  
シ

第四百五十二條 (契約ニ就テノ詐欺取財)  
契約ヲ結フニ當リ不正ノ利益ヲ營ムカ爲メ之ヲ第



四百五十條及ヒ第四百五十一條ノ定規ニ準シ詐欺  
取財ノ罪ニ處ス可キ者ハ止タ左ノ所業ニ涉リシキ  
ニ限ルナリ即チ

第一款 片務ノ契約ニ於テ他人ニ損害ヲ加ヘ以テ  
其契約物ヲ詐欺ニ依リ己ノ所有ト爲サンカ爲メ  
及ヒ雙務ノ契約ニ於テ其報酬ヲ約セスシテ他ノ  
一方ノ契約履行中ニ在ル利益ヲ詐欺ニ依テ己ノ  
所有ト爲サンカ爲メニ契約ヲ以テ詐欺ノ費用ニ  
充テ而シテ實ニ其物利ヲ得タルキ

第二款 若シ民法上ニ照シ契約取消或ハ要償ノ訴

訟ヲ爲ス可キ理由アル方法ヲ用ヒタル故意ノ詐  
欺ニ依リ亦他ノ一方ニ屬スル要償ノ權ヲ奪取セ  
シト欲シ若クハ要償ノ訴訟ヲ爲ストモ償金ヲ出  
ス可キ能力ナキヲ結約ノ當初ニ於テ自信セシ  
情況ニ依テ不正ノ利益ヲ營ミシキ

第四百五十八條 (貪欲ノ目的ナキ詐欺ノ罪)

貪欲ノ目的ナク佞惡或ハ復讐ノ念ヨリシテ詐欺ニ  
依リ他人ノ財産ヲ損害スルノ罪ヲ犯シ而シテ其所  
業他ノ重罪ヲ犯スニ至ラザリシキハ二年以下ノ禁  
獄或ハ工役ノ刑ニ處ス可シ



○瑞典 千八百六十四年三月十六日ノ刑法

第二十二章

第一條 姓名或ハ性質或ハ身位ヲ偽リ或ハ其他ノ偽計詐術ヲ施スト否トヲ問ハス他人ノ財物又ハ金貨ヲ騙取シ若クハ其財物金貨ノ消耗ヲ萌醸セシメタル者ハ罰金又ハ六個月以下ノ禁獄ニ處ス可シ(但シ最後ニ於テ設定セシ場合ハ之ヲ除ク若シ加重ス可キ原由アル情狀ノ現然タルハ二年以下ノ苦使ノ刑ニ處ス可シ)

○不來梅 千八百六十年ノ草案

第四百十九條 自己又ハ他人ノ爲メニ不法ノ利益ヲ營マンカ爲メニ無根ノ事實又ハ虛捏ノ事實ヲ用ヒ之ニ依テ他人ノ疑惑ヲ萌醸シ或ハ之ヲ養成シ其財產ヲ損害スル者ハ詐欺取財ノ犯罪ナリトス  
詐欺取財ノ未遂犯罪モ刑ニ處ス可シ

第四百二十條 詐欺取財後條第四百二十二條及ヒ第四百二十三條中ニ掲ケタル罪狀ノ毫モナキ者ハ三年以下ノ禁獄ノ刑ニ處ス可シ而シテ其較輕キ場合



ニ在テハ禁獄ノ代リニ一百ターレル以下ノ罰金ヲ  
科ス可シ(第四百二十二條  
原本之ヲ脱ス)

○墾地利 千八百六十  
七年ノ草案

第二百七十四條 故意ヨリシテ偽説若クハ偽行ヲ以

テ他人ヲ誑欺シ或ハ必ス疑惑ヲ萌醸ス可キヲ熟知  
セシ詐欺ノ方法ヲ用ヒ之ニ因テ他人ノ財産ニ損害

ヲ加ヘシ者ハ騙欺取財ノ犯罪ナリトス

第二百八十條 財産及ヒ人權ノ損害ヲ加ヘタルニハ

非ツレモ詐欺ノ方法ニ依リ故意ヲ以テ其他ノ權利

ニ損害ヲ加ヘ或ハ此ノ如キ方法ニテ自己又ハ他人

ノ爲メニ不正ノ利益ヲ營ム者若シ此刑法書中ニ確

定セシ此他ノ犯罪ナルニ非ルモハ詐欺取財ノ輕罪

犯ト爲シ一箇月以上四箇月以下ノ禁錮ニ處ス可シ

○丟列支 千八百六十  
六年ノ草案

第百八十三條 財産或ハ其他ノ權利ヲ損害ス可キ目

的ニ於テ無根ノ事實ヲ發言シ或ハ有根ノ事實ヲ秘

包シ若クハ打消シ之ニ依テ他人ニ疑惑ヲ萌醸セシ

メ或ハ其疑惑ヲ養成スル者ハ詐欺取財ノ罪犯ナリ



トス

第百八十四條 詐欺ノ犯罪ヲ遂成シタリト見做スモ  
ノハ詐欺ノ所行其目的ヲ遂ケ而シテ騙欺セラレシ  
人ノ所行又ハ廢業ニ因テ觀ルニ騙欺ノ爲メ迷信ニ  
陥リシコノ判然タルキナリトス

第百八十七條 詐欺取財ノ犯罪ニシテ毫モ第百八十  
六條中ニ掲載セシ如キ加等ス可キノ罪因アラサル  
者ハ單純騙欺取財ト爲シ左ノ如ク處ス可シ  
第一款 若シ詐欺ニ依テ得タル利益ノ高五百フラ  
シク以上ナルキハ五年以下ノ徒刑或ハ工役ノ刑

第二款 若シ詐欺ニ依テ得タル利益高五百フラン  
ク若クハ五百フランク以下ナルキハ五年以下ノ  
工役ノ刑或ハ五千フランクノ罰金ヲ連帶セシ禁  
獄ニ處シ或ハ其較輕キ場合ニ於テハ單ニ罰金ノ  
ミナ科ス可キナリ

○魯西亞

第千六百六十五條 詐欺ヲ以テ他ノ者ノ物品貨幣或  
ハ其他ノ動産ヲ奪攘スルヲ騙盜ト認知ス可シ  
第千六百六十六條 勸解罰則第百七十三條ヨリ第百



七十六條ニ至ルノ各條ニ揭示シタルモノニシテ即チ三百ル<sup>ル</sup>ブル<sup>ル</sup>以上ノ金額ニ對スル詐欺及ヒ騙盜ヲ爲ス罪人ハ初度ニ於テハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル再度ニ於テハ第三十一條ノ第四等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラレ三度ニ於テハ第三十一條ノ第一等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル(第六百九十八條)

第千六百六十七條 勸解罰則第百七十三條ヨリ第百七十六條ニ揭示シタルモノニシテ三百ル<sup>ル</sup>ブル<sup>ル</sup>以

下ノ詐欺及ヒ騙盜ヲ爲ス貴族僧侶及ヒ貴顯都人ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ勸解罰則ニ原キタル罰ニ處セラル(第六百九十八條)

第千六百六十八條 若シ騙盜ノ罪人ハ其騙盜ヲナサシカ爲メニ官署或ハ官廳ノ委任ニ由テ所行スル者ノ名稱ヲ假リ或ハ己レニ屬セサル職務ヲ私有スル<sup>ル</sup>ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セラル(刑法第二百八十九條及ヒ第二百七十七條第七項)

第千六百六十九條 若シ騙盜ノ罪人已ノ故意ヲ實行



センカ爲メニ政府ノ委任ニ由テ所行スル者ノ名ヲ  
假リ又ハ官務或ハ民務アル者ノ名ヲ假テ以テ官服  
ヲ着シ或ハ其者ノ職務ニ屬シタル裝飾ヲ附スルキ  
ハ合犯ノ規則ニ依テ罰ニ處セラル(第百五十二條及  
第百八十二條)

條

第千六百七十條 禁制或ハ無禁制ノ戲遊ニ知テ贋造  
ノ骨牌及ヒ骰子等ヲ使用シ又酒或ハ毒ヲ戲遊者ニ  
與ヘ又ハ骨牌或ハ骰子ヲ配換或ハ欺替シ又ハ總テ  
勝ヲ得ンカ爲メニ或ル他ノ詐欺アルヲ證徴セラル  
、者ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特權全部ノ剝奪及

ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依テ西比利住所ノ  
放流或ハ懲囚隊内ノ騙入ニ處セラル(第百九十九  
條及第百九十九

條十三

第千六百七十一條 騙盜ノ罪人ニ從フ可キ罰ハ裁判

所ノ見込ニ依テ一等重加セラル可シ

第一 若シ窃盜或ハ騙盜ニ就テ既ニ一タヒ言渡サ  
レタル者カ騙盜ヲ爲シタル時

第二 若シ數人ノ約束ニ由テ騙盜ヲ爲シタル時

第三 若シ詐欺ナナサンカ爲メニ特別ノ準備ヲ爲  
シタル時



第四 若シ罪人ハ已ノ職務或ハ位地ニ由リ又ハ被欺者ト特別ノ關係アルニ由テ特別ノ信用ヲ得タル時

第五 若シ幼者老者瞽者或ハ聾者ヲ瞞欺シタル時

第六 若シ詐欺ヲナサンカ爲メニ惑溺ノ教式ヲ用ヒタル時

第七 若シ罪人ハ代理人或ハ使役人ノ名ヲ假リ又ハ偽名ヲ私有トナシタル時

第一千六百七十二條 法律ニ由テ騙盜ト認知セラル可キ犯罪ヲ三度爲ス者ハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特

權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第三等ニ依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セララル

第一千六百七十三條 三度以上騙盜アルヲ證徴セラレタル者ハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ放流ニ處セララル

第一千六百七十四條 騙盜ノ罪人ニ從フ可キ罰ハ裁判所ノ見込ニ依テ一等或ハ二等ノミナラス三等迄モ輕減セララル、ヲ得可シ但シ斯ノ如キ犯罪ニ第一千六百六十三條ニ明示シタル情實アリシキハ然リトス  
第一千六百七十五條 騙盜ノ罪人ハ前文第一千六百六十



四條ノ規則ニ原キテ己カ奪攘シタル諸物ヲ返還シ

且己カ蒙ラシメタル損失ヲ返償セサル可ラス

(注目)親子ノ間及ヒ夫婦ノ間ノ騙盜ニ關スル事件ハ

犯罪ノ爲メニ損失ヲ蒙ル者ノ詞訟アルニ非サレハ

第千六百七十六條 契約ニ於テ各種ノ詐欺ヲ爲スノ

罰ハ此篇ノ第四章及ヒ第五章ニ於テ確定セラル可

シ(第千七百一十條等)

第千七百五條 同一ノ不動産ヲ二重ニ質入シ又ハ所

有主ヨリ緊要ノ委任ヲ得スシテ他ノ者ノ財産ヲ質

入スル者又考出シタル財産ヲ質入スル者又ハ禁止

沒收或ハ後見ノ下ニ在ル自己ノ所有物ヲ其禁止沒

收或ハ後見ノ存スルヲ隱蔽シテ以テ質入スル者又

ハ竊取シタル物品或ハ暴行或ハ詐欺ヲ以テ奪取或

ハ私有シタル物品ナルヲ知テ之ヲ質入スル者ハ斯

ノ如キ財産ヲ販賣スルニ就キ前文第千六百九十九

條ヨリ第千七百一條ニ至ルノ各條ニ確定シタル罰

ニ處セラル

質物ニ關スル證書ノ證人ニシテ其時ニ詐欺アルヲ

知リシ者ハ此犯罪ノ從罪人ノ如ク罰セラル可シ(罰則)



○印度

第四百十五條 詐欺ノ心ヲ以テ人ヲ欺キ其人ヲシテ財ヲ與ヘシメ或ハ故ラニ其人ヲシテ其人ノ心思身体名譽財物ヲ損害スルニ至ル可キ所爲又ハ懈怠ヲナサシムル者ヲ稱シテ詐欺罪ヲ犯スト云フ

第四百十六條 人ノ名ヲ冒シ或ハ知リナカラ人ヲ別人ト稱シ或ハ己レ又ハ人ヲ以テ別人ヲ扮シテ詐欺ヲナス之ヲ人ノ名色ヲ冒シテ詐欺ヲナスト云フ

説明 名色ヲ冒サレタル人實ニ存スルト否ラサルヲ問ハス

第四百十七條 詐欺罪ヲ犯ス者ハ一年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第四百十八條 法ニ於テ又ハ契約ニ依テ我其利ヲ保護ス可キ人ニ不正ノ損ヲ蒙ラスルニ至ル可キヲ知テ詐欺罪ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第四百十九條 人ノ名色ヲ冒シテ詐欺罪ヲ犯ス者ハ



三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄  
 贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ  
 第四百二十條 詐欺ヲ行ヒ因テ被欺者ヲシテ財物ヲ  
 渡サシメ或ハ有價ノ保證又ハ己ニ手署捺印ヲ經テ  
 有價ノ保證トナス可キ物ヲ製作更改破毀セシムル  
 者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ  
 入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

○墾地利 千八百五十二年五月二十七日布告

第百九十七條 詐猾ノ計略若クハ所行ヲ以テ他人ヲ

誑惑シ該人ヲシテ(國家若クハ一區或ハ一人)其所有  
 物ヲ害シ或ハ更ニ他人ノ權利ヲ犯サシムル者或ハ  
 右ノ趣意ヲ挾ミ同上ノ詐術ヲ爲サントスルニ際シ  
 他人ノ昏迷若クハ不覺ヲ利トシ故ヲニ誣罔スル者  
 ハ詐偽ノ罪トス之ヲ犯ス所以ノ起因ハ我慾凝結心  
 又ハ某甲ヲ非法ヲ以テ扶助セント欲スル等其他何  
 等ノ意志ヨリ生スルニモセヨ凡斯ノ如キ類皆然ル  
 モノトス

第百九十八條 詐偽ノ重罪ト爲ルハ該所業ノ性質及  
 ヒ損害ノ多少ニ因テ然ルモノトス



第一百九十九條、第一百九十七條ノ規則ニ從ヒ詐偽ハ其

所業ノ性質ニ從ヒ左ノ場合ニ於テ之ヲ重罪トス

(イ) 凡自分ノ事ニ於テ訴訟ヲ爲スノ間誓詞ノ贋造

ヲ爲サント着手シ又ハ之ヲ爲シ或ハ訴訟ニ用フ

可キ偽證ヲ設ケ假令該證中ニ口實トシ辨解ス可

キ事由アリト雖モ之ヲ裁判上ニ使用セシメシ者

(ロ) 官吏、官命若クハ臨時ニ官府ヨリ準許セル特權

ト偽ル者

(ハ) 職業上ニ使用ス可キ權量檢印ヲ有スルト有セ

サルニ關セス不正又ハ小形ノモノヲ使用セシ者

(ニ) 公用筆記類又ハ官府ノ表點セル極印押印及ヒ

品價印等ヲ贋造スル者

(ホ) 經界ノ標柱ヲ斷除シ又ハ之ヲ遷移スル者

(ヘ) 無益ニ金貨ヲ投費シ其未終ニ償フ能ハサルリ

狀ニ至リ又ハ偽計ヲ以テ産信ヲ増サント欲シ或

ハ偽債主ヲ設ケ爾他凡ソ他人ト馴レ合ヒ又ハ財

産ノ一部ヲ陰匿シテ其眞量ヲ偽ル者

第二百條 右ニ掲載スル者ノ外尙ホ凡本罪ヲ以テ他

人ニ加フルノ損害或ハ損害ヲ爲サシメントスルノ

惡圖二十五「グルデン」以上ノ事件ニ係ルルハ亦之ヲ



重罪トス

第二百一條 詐偽ノ趣向ハ千様萬態極メテ夥多ナル  
ヲ以テ悉ク之ヲ成例中ニ枚擧ス能ハス然レモ前條  
ニ記載セル價額ノ規則ニ從ヒ特ニ左ノモノハ之ヲ  
重罪トス

(イ) 凡人民私有ノ書記類ヲ偽造シ又ハ其正物ニ質  
造セシ者及ヒ某書記類ニ毫モ關係ナキカ或ハ其  
全權ヲ以テ掌領セサル者ヲ他人ニ損害ヲ與ヘン  
爲メ故ラニ没失毀損摩滅シ或ハ質造ノ紙幣若ク  
ハ公債證書類及ヒ貨幣等其主犯或ハ共犯者トノ

協同ニ係ラスト雖モ質造物ナルヲ知テ之ヲ流通  
セシムル者

(ロ) 他人ノ愚暗ナルヲ利トシ眩惑若クハ詐猾ノ術  
ヲ用ヒテ該人若クハ他人ノ害ヲ生セシムル者

(ハ) 凡見當リ物又ハ誤テ己レニ歸セシ者ヲ故ラニ  
陰匿シテ終ニ收領セントセシ者(但シ本罪ハ自ラ  
拾ヒ物秘收ト同シカラス)

(ニ) 姓名地位及ヒ風俗ヲ偽リ或ハ他人ノ財産ヲ領  
掌セル姿ヲ作シ或ハ偽計ヲ弘長シテ凡不正ノ利  
ヲ營ミ或ハ他人ノ財産若クハ權利ヲ害セント欲



シ又ハ他人ヲ誑惑シテ(斯ニ於テ若シ詐僞ヲ用ヒサレハ蓋シ該人之ヲ肯ンセサランニ)妨害ノ所業ヲ爲サントスル者

(ホ) 凡博奕骨牌ノ遊技ニ於テ僞賽及ヒ僞牌其他詐計僞略ヲ用ヒシ者

第二百二條 詐僞ノ刑ハ大抵六月以上一年以下ノ徒刑トス然レモ特ニ加等ノ情狀見然スルニ於テ六一年以上五年以下ニ及ヒ得ルアリ  
第二百三條 犯罪者詐僞ヲ用ヒテ以テ掠略シ得ルカ或ハ之ヲ掠略セント企テシ價額三百「グル」デシ以上

ニ及フカ或ハ詐僞ヲ行ハン爲メ特ニ慥悍僞計ヲ用ヒ及ヒ詐僞ヲ以テ其常習ト爲セシ者皆五年以上十年以下ノ重徒刑ニ處ス可シ

第二百四條 僞誓ヲ作り以テ詐僞ノ重罪ヲ犯ス者ハ

(第百九十九條(イ)號下ノ如キ)第二百二條及ヒ第二百三條ニ掲ケタル時間重徒刑ニ處ス可シ然レモ其僞誓ヲ以テ甚シキ巨害ヲ生セシムルニ於テハ二十年加之其情狀特ニ重キニ於テハ終身重徒刑ニ處スルコトアル可シ

第二百五條 凡詐僞ニシテ第百九十九條及ヒ第二百



條ノ如キ情狀ナキ者ハ之ヲ違式罪トシ該刑法第二  
篇中ノ本罪條例ニ從テ之ヲ處分ス可シ

第四百六十一條 監守盜及ヒ詐僞モ亦第四百八十一條

第四百八十三條第百九十九條第二百條及ヒ第二百一

條中ニ於テ重罪ト爲セシ如キ甚シキ犯罪ニアラサ

ルモソハ之ヲ違式罪トシ同上ノ刑ニ處ス可シ(同上

トハ一週以上六月  
以下ノ禁獄ヲ云フ)

第四百六十二條 前條ノ罪科處刑ノ長短及ヒ其寬嚴

ハ平素ノ品行違式犯罪中ノ偽計暴惡危殆自負ノ大

小ニ從テ之ヲ定ム

○加利堡爾尼

第五百三十條 凡人ノ將サニ他ヨリ交付セラレント

スル錢幣資産アルコヲ知テ之ヲ自己若クハ他人ノ

用ニ變換シ若クハ其本人ヨリ奪去セント企欲シ其

人ヲ扮冒シテ之ヲ收領スル者ハ其收領スル所ノ金

額代價ヲ算計シテ偷盜罪ト同ク論ス

第五百三十一條 凡奸詐ヲ以テ各種ノ土地邸宅世産

貨物什器若クハ這等ノ物件ヨリ生スル權利ヲ傳移

スル者ニ黨シ若クハ人ヲ訛騙欺瞞シ若クハ債主及



七其他ノ人民ノ負債還償要求ヲ打敗欄阻稽延スル  
 ノ企欲ヲ以テ受得作爲畫策セル保憑訴訟裁判所分  
 定約傳運ニ黨スル者或ハ這等ノ事件ニ黨シテ故ラ  
 ニ其事物ヲ真正ナリトシ及ヒ信實ノ考案上ヨリ施  
 行受得作爲セラレタリトシテ之ヲ登記使用公告固  
 守許可保護シ若クハ其土地邸宅世産貨物什器及ヒ  
 其他ノ物品若クハ其幾分ヲ其黨ニ移去派委販賣ス  
 ル者ハ小罪ト爲ス

第五百三十二條 凡故意ニ虚偽奸詐ノ陳說假冒ヲ以

テ人ノ錢幣資産ヲ欺受スル者或ハ人ヲシテ自己ノ

富豐正商タルコトヲ偽稱セシメテ金主ノ信ヲ取り因  
 テ以テ其錢幣資産ヲ欺受スル者ハ禁固ヲ科シ仍ホ  
 其欺受セル錢幣資産ノ三倍ニ過キサル罰金ヲ科ス

第五百三十三條 凡一タヒ各地ノ土地若クハ邸地ヲ

販賣交易發配セル後若クハ其土地邸地ヲ販賣スル  
 ノ保憑狀約定書ヲ成了セル後ニ前買者若クハ後買  
 者ヲ欺瞞セント企欲シテ故ラニ再ヒ其全地若クハ  
 其幾分ヲ他ノ人氏ニ販賣發配交易シ若クハ其保憑  
 狀約定書ヲ成了スル者ハ一年以上十年以下ノ禁固  
 ナ科ス







〇獨逸

第二百九十一條 砲隊ニテ使用スル彈藥及ヒ兵隊發放練練中岳上ヨリ砲發シタル彈丸ヲ不正ニ自己ノ所有トナシタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄又ハ三百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

〇英吉利

凡官私ノ地内ニ於テ埋藏物ヲ掘得或ハ遺失物ヲ得テ因テ隱匿シ官私ニ送ラサル者ハ輕侮皇權律ニ坐シ贖罪及ヒ入獄ニ處斷ス

〇普魯士

千八百五十一年四月十四日ノ刑法

第二百二十六條 凡他人ノ動產ヲ偶然發見シ之ヲ己ノ所有ト爲セシ人其原有主所有主假有主ノ損害ト爲ル可キ方法ヲ以テ之ヲ典當ト爲シ或ハ費耗シ或ハ他方ニ移置シ或ハ他人ノ所有物ヲ偶然ニ得タルヲヲ熟知シナカラ官署ニ對シ本主ノ所有權ヲ拒ム  
\*ハ監守自盜ト同視ス可キナリ

第二百二十七條 監守盜并ニ監守盜未遂犯罪ハ一ヶ月以上ノ禁獄ト有期ノ民權剝奪ヲ併科ス可シ



若シ輕減ス可キ景況ヲ判然確認セシキハ禁獄ノ期限ヲ減殺シテ一日迄ニ至ルヲ得可シ

○薩克索 千八百六十八年十月改正ノ刑法

第二百九十一條 紛失物(但シ海濱河岸ニ漂着スル所ノ動産及ヒ貨物亦這裡ニ包含ス)ヲ發見シ而シテ監守自盜ヲ爲ス者ハ出訴ヲ待テ通常竊盜ニ科ス可キ刑ノ二分一ヲ以テ其罪ヲ處決ス可シ 第二百七十六條  
若シ其動産ノ本價一「ターレル」以上ニ至ラス或ハ拾取セシ人其物ノ腐敗ス可キカ故ニ之ヲ費耗セシキ

又拾取物ヲ所有スルニ當リ搜索ヲ被リ之ヲ偽リ隠サ、ルキハ其罪ヲ問ハス

○挨塞 千八百四十一年九月十七日ノ刑法

第三百八十一條 凡道理上ニ於テ原有主ノ棄却セシ動産ナリト認ム可ラサルモノヲ發見シ即チ偶然ニ之ヲ己ノ所有ト爲セシ者或ハ自ラ唱へ出テタル原有主即チ紛失セシ人ニ對シ其動産ヲ發見シ即チ所有ト爲セシヲ隱藏シ又還與スルヲ肯ンセサルキハ監守自盜ノ罪犯ナリトス若シ或ハ發見セシ者



己ニ其他ノ方法ニ因リ原有主即チ紛失セシ人ヲ覺知セシ後或ハ紛失主其紛失物ヲ新聞紙上ニテ公然請求セシトテ諒知セシ後還與若クハ官署ニ啓告ヲ怠リタク者不法ノ目的ニテ之ヲ所有セシニアラザルノ確證ヲ表シ能ハサルニ於テハ監守自盜ノ罪犯ナリトス

官署ヨリ着手セサル前ニ紛失物ヲ發見シ之ヲ所有セシトテ官署ニ啓告シタルキハ全ク無罪トス

○丟靈厄斯的丁千八百四十九年ノ刑法

第二百三十二條 未項

他人ニ屬セシ貨類ヲ發見シ貪利ノ目的ヲ以テ之ヲ己ノ固有ト爲ス者ハ前項ト同一ノ刑ニ處セラル可シ(前項ハ通常竊盜ノ刑ヲ以テ處決ストアリ)

第二百三十五條 他人ノ動産ヲ發見セシ者

第一款 發見セシ動産ヲ紛失主若クハ原有主ニ對シ其還與ヲ肯シセサルキ或ハ新聞紙上ノ公告ニ依テ請求セシトテ熟知シテカラ其請求ニ應セサルキ或ハ動産ヲ紛失主及ヒ其原有主何ノ方法ヲ以テスルヲ論セス發見者ニ告知シタル後尙ホ貪



利ノ目的ニ依リ之ヲ己ノ固有ト爲スルハ通常窃盗ニ科ス可キ刑ノ二分一ヲ以テ處決ス可シ

第二款 動産ノ實價一ターレ以上ノモノニシテ第一發見者其動産ノ紛失主及ヒ其原有主ヲ了知セサルニ因リ之ヲ己ノ固有ト爲シタルハ第二動産ヲ發見セシ時ヨリ三十日ヲ過キテ之ヲ官署ニ申出テス又ハ之ヲ新聞紙上ニテ公布セサルハ六週間以下ノ禁獄ニ處シ若シ三週日以下ノ禁獄ニ處ス可キモノハ之ニ相當ノ罰金ヲ科ス可シ

○不拉尼斯襪意厄千八百四十年七月十日ノ刑法

第二百二十三條 凡拾取物ヲ法ニ背キ己ノ固有ト爲セシ者ハ其監守自盗ノ贓價ニ準シ刑ニ處セラル可シ然レモ一年以上ノ徒刑ニ在テハ之ニ代フルニ同期ノ徒場驅役ヲ以テシ一年以上ノ徒場驅役ニ在テハ之ニ代フルニ同期ノ禁獄ヲ以テシ又一年以下ノ徒場驅役ニ代フルニ同期ノ禁獄ニ處セラル可シ

○昂不爾厄千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第七二七  
第百八十七條 第四項



上項ノ外他ノ監守自盜並ニ拾取動産ヲ法ニ背キ己ノ固有ト爲スノ犯者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄ニ處セラレ或ハ四百「ター」ルヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ

○巴威也拉

千八百六十一年十一月十日ノ刑法

第二百九十九條 偶然發見或ハ不分明ナルニ因テ己ノ所有ト爲セシ他人ノ動産ヲ自己又ハ他人ノ爲トニ不法ノ利益ヲ計ルノ故意ヲ以テ之ヲ官署ニ啓告セス或ハ新聞紙上ノ公告ヲ以テ其原有主ヲ搜索セ

スシテ其全部若クハ其一部ヲ賣却シ又ハ典當ト爲シ又ハ費耗セシ者若シ動産ノ代價二十「ギ」ユルデシ以上ニ至ラサルキニ於テハ禁錮ノ刑或ハ百五十「ギ」ユルデシ以下ノ罰金ヲ科ス可シ其他三年以内ノ禁獄ニ處セラレ、トアリ

上ノ如ク自己又ハ他人ノ爲トニ不法ノ利益ヲ計ルノ故意ニ出テ自ラ唱へ出タル原有主若クハ此ニ關係シタル官署ニ對シ發見ニ因テ所有ト爲シタルヲ隠蔽シ或ハ之ヲ還與スルヲ背ンセサル者或ハ他ノ方法上ニ於テ紛失主ヲ覺知シ或ハ其動産ニ關



シタル新聞紙上ノ公告ニ依リ其人ヲ辨知シテカ  
之ヲ償却スルコトヲ果サス又ハ官署ニ啓告スルコトヲ  
怠ル者ハ其動産ノ代價二十ギユルデシ以上ニ至ラ  
サルモ於テハ禁錮ノ刑或ハ百五十ギユルデシ以  
下ノ罰金ヲ科ス可シ其他三年以内ノ禁獄ニ處セラ  
ル、コアリ  
不法ノ分與ヲ取シト欲スルノ故意ヲ以テ其拾ヒ得  
シ貨物ヲ隱蔽スル者ハ上項ト同一ニ見做ス可キナ  
リ

〇墾地利 千八百六十七年ノ草案

第二百七十一條 未項

凡拾ヒ得タル貨物ヲ己ノ固有ト爲シ因テ他人ヨリ  
相應ノ分與ヲ取ント爲ス者ハ前條ト同一ニ見做ス  
可キナリ

〇加利堡爾尼

第四百八十五條 凡遺失物ヲ得ルニ其本主ヲ知り若

クハ之ヲ探知スルノ道アツテ此ニ適應ノ心力ヲ盡  
サス却テ之ヲ自用シ若クハ他人ニ與ヘテ之ヲ使用



セシムル者ハ偷盜罪ト爲ス

第四百八十六條 偷盜罪ハ大偷罪小偷罪ノ二等三分

ツ

第四百八十七條 大偷罪ハ左ノ各件ニ觸ル、者トナ

ス

第一 其贓ノ價五十元ヲ過ル者

第四百八十八條 右ノ外ハ小偷罪トス

第四百八十九條 大偷罪ハ一年以上十年以下ノ禁固

ヲ科ス

第四百九十條 小偷罪ハ五百元以下ノ罰金若クハ六

月以下ノ禁固ヲ科シ若クハ右ニ刑ヲ併科ス

○印度

第四百三條 不正ニ動財ヲ私用シ或ハ我カ有トナス

者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ

入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

説明一 不正ニ財ヲ私用スル一時ニ過キスト雖モ

此條ノ限ニ在ルナリ

説明二 人其所有主ヲ知ラサル財物ヲ看出シ所有

主ノ爲メニ之ヲ守リ或ハ所有主ニ還付スルノ目



的ヲ以テ之ヲ取ルハ罪ニアラサルナリ然レモ己  
 ニ其所有主ヲ知り又ハ之ヲ知ルノ便アリテ之ヲ  
 私用スル者ハ後之ヲ所有主ニ與フルト雖モ此條  
 ノ罪ヲ犯スナリ  
 看出人財物ノ主誰タルヲ知ルヲ要セス之ヲ私用  
 スルノ時ニ於テ其財物我カ有ニアラサルヲ信シ  
 又ハ所有主ノ尋テ知ル可キヲ信スルヲ以テ罪ヲ  
 ナスニ十分ナリトス

第六十五 信義ニ背キ利ヲ圖ル等ノ罪

○佛蘭西

第四百六條 幼者ノ窮乏怯心情欲ニ乘シ其損害トナ  
 ル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀動産商業ノ手  
 形又ハ其他ノ手形類ヲ貸借スル義務ノ證書又ハ算  
 還證書ニ其姓名ヲ手署セシメシ者ハ其取引掛合ヲ  
 爲ス方法ノ如何ナルヲ問ハス又口實ノ如何ナルヲ  
 問ハス二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間  
 禁錮ノ刑ニ處セラレ且其罪犯ノ爲メ損害ヲ受ケタ  
 ル者ニ償還ス可キ總高ノ四分一ヨリ多カラス二十



五「フ」ラシク「ヨ」リ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ  
又其犯人ハ前條ノ次項ニ記シタル刑ヲ受ケシムル  
ヲ得可シ

第四百七條 人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐偽  
ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ算還ノ證ヲ記シ又ハ  
其他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身體又ハ産業ノ  
爲メ害トナル可キ證ヲ記シタル者ハ第四百五條ニ  
記シタル刑ニ處セラル可シ  
若シ其白紙ヲ預リタルニ非サル者其罪ヲ犯シタル  
時ハ贋造ノ罪ノ訴ヲ受ケ贋造ノ刑ニ處セラル可シ

第四百八條

千八百六十三年五月十三日如左改ム

借受附託質入借用ノ

爲メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ノ用ヲ達スル爲メ  
人ヨリ動産金銀商品手形算還ノ證書又ハ其他借受  
或ハ算還ノ證書類ヲ受取り後ニ之ヲ還シ又ハ示シ  
又ハ定マリタル用法ニ之ヲ用フ可キノ約ヲ爲シ其  
約ニ背キ此等ノ諸件ヲ竊取シ又ハ消費シテ其所有  
者ノ損害ヲ爲セシ者ハ第四百六條ニ記シタル刑ニ  
處セラル可シ

若シ行政又ハ裁判ニ管スル官吏前項ニ記セシ背信  
ノ罪ヲ犯シタル時又ハ僕婢雇人弟子書記官家童工



丁、年季弟子ノ其主又ハ師ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ爲シタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラ  
ル可シ

但シ此規則ト第二百五十四條第二百五十五條第二  
百五十六條ニ記セシ公ケノ預リ所ニ藏スル金銀動  
産證書類ヲ竊取掠奪スル罪ヲ罰スル規則ト相觸ル  
、ヲナカル可シ

第四百九條 裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲ス時證書又ハ覺  
書ノ類ヲ出セシ後如何ナル方法ヲ論セス其證書又  
ハ覺書ヲ竊取セシ者ハ二十五「フランク」ヨリ少カラ

ス三百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク  
可シ

但シ其刑ハ訴訟ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ言渡ス  
可シ

○獨逸

第二百六十六條 左ノ人々ハ信義ニ背キタル罪トナ  
シ禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪シ或ハ兩刑ノ内一ニ  
從ヒ唯禁獄ニ處スルヲ得可シ

第一 後見人監察人財産支配人贓物預人分散管財



人遺言狀施行人創業支配人創業トハ何事ニヨラ  
ス事ヲ起ストニテ  
商等皆之ヲ云開  
開

若シ自ラ委托ヲ受ケ看守ス可キ人及ヒ其物件ニ  
付キ故ラニ害トナル可キ事ヲ爲シタル時

第二 人ヨリ委狀ヲ受ケタル代理人委托シタル人  
ノ權利貸金銀等及ヒ財産ヲ故ラニ害トナル可ク  
費用シタル時

第三 檢地官評價人中買人官ヨリ相場會社へ運漕  
司商用世話人之レ仲買人尺度官檢査司之ハ金銀  
改役試檢司ニ重モニ金銀船舶荷物支配人其餘職業

ニ付官廳ニ於テ誓詞ヲ爲シタル者若シ其媒合ヲ  
以テ爲ス可キ事件ニ付其委托シタル者ノ爲メ故  
ラニ害ヲ爲シタル時

若シ已レニ利ヲ得ル爲メ或ハ他人ニ利ヲ得セシム  
ルノ目的ニテ信義ニ背キタル事ヲ爲シタル時ハ禁  
獄ノ刑ノ外千「タ」レ「ル」ニ至ル罰金ニ處スルヲ得  
可シ

第二百八十九條 人ヲ欺ク意ニテ花利者他人ニ屬ス  
利益ヲ得ル典物ニ取りタル者使用者他人ニ屬シタ  
人ヲ使用シタ及ヒ物件ヲ引當トシテ押ヘラレタル者



ヨリ已レニ属スル動産ヲ取去シタル者或ハ他人ノ  
 爲メニ前件ノ場合ニ於テ已レニ属セサル動産ヲ取  
 去シタル者ハ三年ヨリ長カラサル禁獄又ハ三百「タ  
 ーレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ  
 禁獄ノ外仍ホ公權ヲ剝奪ス可シ  
 之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ  
 訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ  
 第二百四十七條ノ第二項三項モ此條ニ通シテ用フ  
 可シ

第二百九十條 公然タル典舖典物ニ取りタル物件ヲ

許シナク使用シタルハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ  
 處シ仍ホ三百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス  
 可シ

第二百九十七條 船主船及ヒ其積荷ヲ取押ヘラレ又  
 ハ没収セラレシ時船主及ヒ荷主ヲ害セン爲メ適當  
 ナル物件ヲ船主ニ知ラセスシテ船中ニ載セタル船  
 客又ハ水夫ハ五百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金又  
 ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ但シ船主ノ  
 荷主ニ知ラセスシテ同質ノ物件ヲ其船中へ載セタ  
 ル時モ亦同刑ニ處ス可シ



第二百九十八條 約定ノ爲メ給料ヲ請取リ逃亡シ或ハ其約定ヲ逃レシ爲メ潜匿シタル水夫ハ連邦國又ハ外國ヲ間ハス何レノ地ニテ之ヲ犯シタルトモ一年ヨリ長カラサル禁獄ノ刑ニ處ス可シ

第三百一條 自己ノ利益ノ爲メ幼者ノ蠱忽未熟ナルニ乘シ幼者ヲシテ猥リニ義務證券交引鋪ノ證券請取書保證金其他義務證券類ノ文書ヲ見認シメ又ハ幼者ヲシテ唯言語ヲ以テ拂方ヲ約束セシメタル者ハ六月ヨリ長カラサル禁獄又ハ五百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

第三百二條 凡幼者ノ蠱忽未熟ナルニ乘シ猥リニ幼者ヲシテ其面目ニ關スル約束或ハ面目ニ關スル言語（囁ヲ承諾セシメ或ハ事ニ托シ盟ハシムルノ類）誓詞或ハ之ニ等シキ請合或ハ盟約ヲ以テ金高ノ拂或ハ其金ニ等シキ物件ニ付キタル義務ノ放解ヲ約束セシメタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄又ハ千「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ  
禁獄ノ外仍ホ公權ヲ剝奪ス可シ  
上ニ示シタル景況ニ乘シ幼者ノ義務ヲ放解ス可ク



約束シタルヲ知リテ其權利ヲ人ニ讓リタル者ハ同刑ニ處ス可シ  
訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

○白耳義

第四百九十一條 凡物件貨幣商品商價證票紙幣請取書及ヒ其他義務若クハ免務證券ノ依托ヲ受ケ之ヲ返ス可キヲ約シ或ハ之ヲ他人ニ交付ス可シト約シ或ハ之ヲ某ノ事ニ用フ可シト約シナカラ之ヲ私ニ利シ或ハ自カラ用ヒテ寄放人ニ損失セシムル者ハ

一月ヨリ五年迄ノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ

以上ノ犯人ハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルヲアリ

第四百九十二條 凡第四百六十二條ノ法ヲ以テ前條ノ輕罪ニ的決スルヲ得可シ

第四百九十三條 凡幼者ノ窮迫怯弱若クハ情慾ニ乘シ契約證券領收狀商牌諸種借用切手類ノ總稱等ヲ書シ署名セ

シムル者ハ三月ヨリ五年迄ノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ



此等ノ犯人ハ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スルヲアリ

第四百九十四條 凡人ノ情狀究迫ナル等ヲ察シ財物

ヲ貸シ定則外ノ利ヲ圖ル者ハ一月ヨリ一年迄ノ獄

ニ處シ一千「フランク」ヨリ一万「フランク」迄ノ罰金ヲ

命ス可ク或ハ此一刑ニ處ス可シ

第四百九十五條 凡裁判所ニ證券或ハ文書ヲ出シ争

フ所ノ證左トシ爾後之ヲ詐欺ニ依テ失ハシムル者

ハ二十六「フランク」ヨリ三百「フランク」迄ノ罰金ヲ命

ス可シ

此刑ハ其證ヲ得タル裁判所之ヲ申渡ス可シ

○埃及

第三百三條 幼者ノ窮乏怯心情欲ニ乘シ其損害トナ

ル可キ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀動産ノ貸借證

書ニ姓名ヲ手署セシメ又ハ商業手形或ハ其他ノ手

形類讓渡ノ證書ニ姓名ヲ手署セシメタル者ハ其詐

計ヲ爲セシ方法ノ如何ヲ問ハス二月ヨリ少カラス

二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且其

幼者ニ其損害ヲ償還スルノ外其償還高ノ四分一ヨ



リ多カラス百「ピアストル」ヨリ少カラサル罰金ヲ言  
渡サル可シ

若シ其犯人幼者ノ監察又ハ後見ヲ任セラレシ者タ  
ル時ハ三月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間  
禁錮ノ刑ニ處セラル可シ 罰金及ヒ償還  
ハ前ニ同シ

第三百四條 人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐偽  
ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ償還ノ証ヲ記シ又ハ  
其他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身分又ハ産業ノ  
爲メ害トナル可キ証ヲ記シタル者ハ六月ヨリ少カ  
ラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ

且五百「ピアストル」ヨリ少カラス五千「ピアストル」ヨ  
リ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ  
其犯人、人ヨリ右ノ白紙ヲ預リタルニ非ス之ヲ盜奪  
シタル時ハ贋造人ナリト看做シ其刑ニ處セラル可  
シ

第三百五條 借受附託質入ノ爲メ或ハ雇賃ノ有無ヲ  
論セス人ニ代テ用ヲ達スル爲メ人ヨリ動産金銀商  
品手形義務ノ証書義務解除ノ証書ヲ受取リ後ニ其  
所有者或ハ他人ノ爲メ之ヲ示シ或ハ賣拂ヒ或ハ定  
マリシ用法ニ之ヲ用フ可キニ若シ其約ニ背テ此等



ノ諸件ヲ竊取シ又ハ己ノ益ニ用ヒテ其所有者ノ爲  
ノ害ヲ爲シタル者ハ二月ヨリ少カラス二年ヨリ多  
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損害償還高ノ  
四分一ニ當レル罰金ヲ言渡サル可シ

第三百六條 若シ人ノ使用ヲ受クル者僕婢年季ノ弟  
子工丁ノ右背信ノ罪ヲ犯シ傭主ノ爲メ害ヲ爲シタ  
ル時ハ一年ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
レ且損害ノ償還及ヒ罰金ヲ言渡サル可シ

第三百七條 訴訟吟味ノ間証書類ヲ裁判所ニ出シタ  
ル後之ヲ竊取シタル者ハ其方法ノ如何ヲ問ハス百

「ピアストル」ヨリ少カラス千五百「ピアストル」ヨリ多  
カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

○英吉利

凡人ノ爲メニ送與ス可ク若クハ貯藏ス可ク或ハ爲メ  
ニ品物ヲ收買ス可キ金銀証書等ヲ囑託ヲ受ケ却テ  
私ニ自己ノ用若クハ他人ノ用ト爲ス者ハ輕罪ニ坐  
シ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過サ  
ル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ

凡人ノ財寶品物証書等ノ寄託ヲ受ケ因テ自ラ詐取シ



或ハ自己ノ用ト爲シ若クハ他人ノ用ト爲ス者ハ縱  
ヒ之ヲ減破セスト雖モ竊盜ノ罪ニ坐ス

○丟靈厄斯的丁千八百四十九年ノ刑法

第二百三十二條 己ノ所有若クハ保有中ニ在ル他人  
ノ動産ニ對シ故意ニテ不法且貪利ノ目的ヲ以テ之  
ヲ己ノ固有トシ殊ニ其動産ヲ賣却シ或ハ他人ニ授  
與シ或ハ典當ト爲シ或ハ之ヲ請求ス可キ權利者ニ  
對シ所有セスト言消シ或ハ之ヲ秘隱スル者ハ其動  
産ノ本價ニ準シ通常竊盜ノ刑ヲ以テ處決ス可シ

○魯西亞

第一千六百八十一條 勸解罰則第七十七條ニ揭示シ  
タルモノニシテ三百ルーブル以上ノ金額アル他ノ  
者ノ動産ヲ私有或ハ消費スル者ハ三百ルーブル以  
上ノ金額ニ對スル詐欺及ヒ騙盜ニ就キ確定シタル  
罰ニ處セラル

若シ又輕慮ニ由テノミ消費シタルルキ及ヒ其罪人ハ  
自ラ好シテ損失ヲ蒙リシ者ニ返償スルルキハ三個月  
ヨリ多カラサル拘留ニ處セラル



第一千六百八十二條 勸解罰則第七十七條ニ揭示シ

タルモノニシテ三百ル以下ノ金額アル他ノ者ノ動産ヲ私有或ハ消費スルニ就キ其罪人タル貴族僧侶及ヒ貴顯都人ハ身體及ヒ族位ニ属シタル特權全部ノ剝奪及ヒ三個月ヨリ少カラズ一年ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ處セララル  
又輕慮ニ由テノミ消費シ及ヒ其罪人ハ自ラ好シテ損失ヲ蒙リシ者ニ返償スルノ場合ニ於テハ三箇月ヨリ多カラサル拘留ニ處セララル

第一千六百八十八條 空虛ノ事實ニ關スル詐偽ノ報告

ナルヲ知テ利欲或ハ其他ノ目的ヨリ故ラニ之ヲ或者ニ通知シ以テ之ニ不利ナル財産上ノ約定ヲ爲ス可キヲ勸奨シ又ハ詐偽ノ報告及ヒ保証ナルヲ知ルト雖モ之ヲ以テ或者ノ爲メニ損害アルカ或ハ少クモ甚タ不便ナル企事ニ之ヲ誘入スル者ハ此刑法第五十條ニ依テ特權幾分ノ剝奪及ヒ八ヶ月ヨリ少カラズ一年四ヶ月ヨリ多カラサル時間懲治舎内ヲ禁錮ニ處セララル

若シ被欺者ノ事務ニ關スル委任者或ハ代理人又ハ被欺者ノ商社或ハ商會ニ關スル同社人又ハ被欺者



ヨリ仲裁審判ノ爲メニ仲裁人ニ撰擧セラレ或ハ陪  
 審ノ評價人ニ撰擧セラレタル者又ハ其他政府或ハ  
 公衆ヨリ評價檢視或ハ裁決ノ爲メニ鑑定人ト決定  
 セラレタル者又ハ後見人或ハ管財人並ニ總テ己ノ  
 職務位地ニ由リ或ハ被欺人ト特別ノ關係アルニ由  
 テ其被欺人ノ特別ナル信任ニ關スル權利ヲ有セシ  
 者ニシテ斯ノ如キ詐欺ヲ爲シタルキハ其罰一等重  
 加セララル

然レモ若シ其罪人ハ己ノ目的ヲ達センカ爲メニ官  
 務或ハ民務ヲ奉スル者ノ職務ニシテ即チ己レニ屬

セサル職務ヲ私有シタルキ又ハ知テ贋擬ノ証書或  
 ハ商狀ヲ作爲或ハ使用シ又ハ其他ノ詐偽ヲ爲シタ  
 ルキ又ハ劇酒或ハ其他ノ方略ヲ以テ被欺者ヲ喪心  
 ノ狀況ニ導キタルキハ身体及ヒ族位ニ屬シタル特  
 權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ依  
 テ西比利住所ノ放流成ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セラ  
 ル

第一千六百八十九條 若シ未成年者ノ法律ヲ知ラサル  
 ニ乘シ或ハ輕忽及ヒ柔弱ナルニ乘シ詐欺及ヒ偽証  
 ヲ以テ其未成年者ニ允許セラレサル財産上ノ約定



ナ之ト爲スルハ又ハ成年ニ至ル迄亦法律上ニ允許セ  
 ラレサル契約書ヲ未成年者ヨリ取ルルハ之カ爲メ  
 ニ何等ノ返償モナク斯ノ如キ諸約定及ヒ契約書ヲ  
 廢止スルノ外四ヶ月ヨリ少カラス八ヶ月ヨリ多カ  
 ラサル時間懲治舎内ノ禁錮ニ處セラレ或ハ二ヶ月  
 ヨリ少カラス四ヶ月ヨリ多カラサル時間ノ禁獄ニ  
 處セララル  
 若シ官務或ハ民務ニ在ル者ハ斯ノ如キ犯罪アルヲ  
 証徴セラレタルハ此上文ニ確定シタル罰ノ外免  
 職ニ處セララル(第五百十八條)

第一千六百九十條 証券事務官或ハ公証人及ヒ世話人

ノ處ニ確定セラレ或ハ呈出セラレサル可ラサルノ  
 証書ヲ贋造シ及ヒ斯ノ如キ証書ヲ恰モ呈出シタル  
 カ如クニ偽示シ並ニ真正ノ証書ヲ故意ヲ以テ改正  
 或ハ削除及ヒ其他變更スル罪人ハ族權全部ノ剝奪  
 及西比利謫所ノ放流又ハ身体及ヒ族位ニ属シタル  
 特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等ニ  
 依テ懲囚隊内ノ編入ニ處セララル  
 証書ヲ作爲スルノ委任ヲ已レニ與ヘサリシ者ノ名  
 アル証書ヲ証券事務官或ハ公証人及ヒ世話人ノ處



ニ於テ作爲スル者又ハ已レニ與ヘラレタル委任ノ  
既ニ止絶シタルヲ知リテ其委任ヲ與ヘタル者ノ名  
アル証書ヲ証券事務官等ノ處ニ於テ作爲スル者又  
ハ考出シタル者ノ名稱ヲ假リ或ハ詐僞ノ委託ヲ顯  
シテ以テ其考出シタル者ノ名アル証書ヲ証券事務  
官等ノ處ニ於テ作爲スル者モ亦同上ノ罰ニ處セラ  
ル可シ

第一千六百九十四條 或ル証書ヲ記載センカ爲メニ或  
者ヨリ委任サレタル白紙ノ署名ニ乘シテ以テ其白  
紙ヲ委任シタル者ノ爲メニ害アル他ノ証書ヲ記載

シ又ハ白紙ノ署名ヲ己カ利益ノ爲メニ使用スル者  
モ亦前文第一千六百九十二條ニ確定シタル罰ニ處シ  
テ其罰一等重加ス可シ

第一千六百九十五條 信任書ノ廢止シタル事ヲ既ニ承  
知シテ其信任書ニ原キ約定ヲ爲シタル者ハ詐僞ニ  
於ルカ如ク前文第一千六百六十條ヨリ第一千六百九十  
二條ニ至ルノ各條ニ依テ罰ニ處セラレ

第一千七百四條 權利ヲ有スルコトヲ保存或ハ暫領ノ  
爲メ已レニ附托サレタル物品ヲ故意ニ滅盡或ハ損  
傷スル者ハ其物品ノ種類及ヒ其滅盡或ハ損傷ノ種



類ニ依リ他ノ者ノ財産ヲ滅盡或ハ損傷スルニ就テ  
 確定シタル罰ノ重キモノニ處セララル

第一千七百六條 或者ヨリ質物ニ受領シタル物品ヲ處  
 分ス可キ權利ヲ有スル者ノ承知及ヒ許諾ナキニ隱  
 藏シ或ハ故ヲニ滅盡スル者又ハ故ヲニ物品ノ一部  
 分ヲ除去シ或ハ變更シテ以テ其品物ノ價直ヲ減少  
 スル者ハ他ノ者ノ財産ヲ私有シ又ハ故ヲニ滅盡ス  
 ルニ就キ確定シタル罰ニ處セララル(刑法第千六百八  
 八十二條及ヒ罰則第百  
 五十二條第百七十七條)

第一千七百九條 己レニ與ヘラレタル委任ノ制限ヲ惡

謀ヲ以テ超過スル受任者又ハ己カ主任者ノ敵手ト  
 關涉或ハ約束ヲ爲スニ於テ己ノ主任者ニ損失ヲ蒙  
 ラシムル受任者ハ之ヲ以テ其主任者ニ蒙ラシメタ  
 ル總テノ損失ヲ返償スルノ外騙盜ニ就キ確定シタ  
 ル罰ニ處セララル

委任ニ由テ家傳不動産或ハ其他ノ財産ヲ管理スル  
 者若シ其己レニ與ヘラレタル委任ヲ故ヲニ犯シテ  
 己ノ受任者ニ損失ヲ蒙ラシムルキハ同上ノ主義ヲ  
 以テ同上ノ罰ニ處セララル可シ

第一千七百十條 己レニ委任サレタル証書或ハ其他ノ



文書ヲ主任者ノ許諾ナク及ヒ裁判所ノ處分ニ由ル  
コナク其主任者ノ敵手ニ授與シ或ハ只通達シテ以  
テ其主任者ニ損失ヲ蒙ラシムル受任者ハ之カ爲メ  
ニ其通達シタル文書及ヒ其蒙ラシメタル損失ノ輕  
重ニ依リ二個月ヨリ少カラス八個月ヨリ多カラサ  
ル時間ノ禁獄ニ處セララル

又ハ若シ其受任者利欲或ハ其他背法ノ目的ヨリス  
ノ如キ事ヲ爲シタルキハ身體及ヒ族位ニ属シタル  
特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第五等ニ  
依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處セ

ラル之ニ加フルニ其受任者ハ己ノ主任者ニ蒙ラシ  
メタル總テノ損失ヲ返償セサル可ラス

第千七百十一條 委任サレタル証書或ハ財産ヲ惡謀  
ヲ以テ滅盡或ハ損傷シ並ニ斯ノ如キ財産ヲ私有シ  
或ハ惡謀ヲ以テ隱藏シ又ハ擅意ヲ以テ消費スル者  
ハ斯ノ如キ犯罪所業ニ就キ確定シタル罰ノ重キモ  
ノニ處セララル

第千五百九十八條 後見人及ヒ管財人ハ己ノ後見或  
ハ管財ヲ受ケタル者ヲ損害スルニ詐欺ヲ爲シ並ニ  
其者ノ所有物ヲ私有及ヒ消費スルニ就キ斯ノ如キ



犯罪ニ就テ此刑法第十二篇ニ確定シタル罰ノ重キモノニ處セラル（第一千六百一）

○加利堡爾尼

第五百三條 竊用トハ人ノ委托スル資産ヲ私用スル

者ヲ言フナリ

第五百四條 會伴結社（公）私（私）ハ執事者主事者受

托者書記者代理者若クハ使丁若シ其委托セラレテ

貯有管領スル所ノ資産ヲ不適法ニ私用シ若クハ私

用ノ企欲ヲ以テ之ヲ秘匿スル者ハ竊用罪トナス

第五百五條 凡擔丁若クハ其他雇錢ヲ受ケテ人ノ動

産ヲ搬運スル者若シ其管領スル所ノ物品ヲ保守搬

運セス却テ之ヲ他事ニ私用スル者ハ其物品ノ包裝

ヲ破リタルト否ヤトヲ分ダス又其幾分ヲ截取シタ

ルト否ヤトヲ論セス並ニ竊用罪ト爲ス

第五百六條 凡受托者銀舗主括商人作牙人幹事者代

理者替辨人成遺書者遺產辨理者募徵者若クハ其他

甲氏ノ費用ノ爲メニ乙氏ヨリ資産ヲ委托セラレテ

之ヲ管領スル者若シ其受托適法ノ施行ニ背テ之ヲ

他事ニ私用シ若クハ其企欲ヲ以テ之ヲ秘匿スル者



ハ竊用罪ト爲ス

第五百七條 凡人ノ動實產ヲ委托セラレテ之ヲ假有シ若クハ之ニ居住寄寓スル者或ハ其資産ノ販賣遞送ヲ委托セラレテ之ヲ幹事スル者若シ其資産若クハ其代價ヲ自己ノ事ニ私用シ若クハ其企欲ヲ以テ之ヲ秘匿スル者ハ竊用罪ト爲ス

第五百八條 凡人ノ書記者代理者使丁若シ其職掌ニ依テ管領辨理スル所ノ資産ヲ自己ノ事ニ私用シ若クハ其企欲ヲ以テ之ヲ秘匿スル者ハ竊用罪ト爲ス  
第五百九條 凡竊用罪ト稱ス可キ者ハ必シモ其取用

ノ明白ナル者ニ限ラス

第五百十條 既成ノ負債券ヲ竊取スル者ハ其之ヲ債主ニ交付シタルト否ヤトヲ論セス並ニ竊用罪ト爲ス

第五百十一條 受托者若シ其委托セラレタル資産ヲ己レニ本屬スト信シテ之ヲ討索シ明カニ委托者ニ開告シテ之ヲ私用スル者ハ其討索假令未タ確乎タラサルモ竊用ノ告罪ニ十分答辨アル者トス但シ委托者ニ要求スル所アツテ之ヲ扣償センカ爲メニ不適法ニ其資産ヲ強留スル者ハ此限ニ在ラス



第五百十二條 被告人若シ其竊用スル所ノ資産ヲ償復セント企欲シタルモ未タ保安審官ニ知告セラレサルニ先ツテ之ヲ償復スルニ非サレハ以テ答辨ノ根据トスルニ足ラス亦以テ其懲治ヲ輕減スルニ足ラス

第五百十三條 被告人若シ未タ其竊用罪ヲ知告セラレサルニ先ツテ現ニ自ラ其竊用セル資産若クハ其幾分ヲ償復シ若クハ償復セント告請スル者ハ未タ答辨ノ根据トス可ラスト雖モ審院ヲシテ其懲治ヲ輕減ヲ酌量セシムルニ足ルナリ

第五百十四條 竊用罪ヲ犯ス者ハ其竊用セル資産ノ代價ヲ計算シテ偷盜罪ノ刑ヲ科ス其竊用スル所若シ負債券若クハ私訟權書ニ係ルキハ其券書ニ記載セル金額ヲ以テ其代價ト爲ス

○印度

第四百四條 人ノ臨死ノ時ニ於テ所有シタル所ニシテ其後法律上之ヲ繼有スルノ權ヲ有スル人所有セザリキ物タルヲ知り不正ニ財ヲ私用シ或ハ己カ有トナス者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ



科ス其人死スル時ニ於テ其人ノ雇人タリシ者之ヲ  
犯スル之ヲ罰スルノ入獄ハ七年ニ及フ可シ

第四百五條 財産若クハ財産ノ管理ヲ委任セラレ、  
者不正ニ其財産ヲ私用シ又ハ己カ有トナシ或ハ法  
ニ於テ定ムル所ノ委任ヲ盡スノ方法ニ違ヒ又ハ委  
任ヲ盡スニ係テナシタル合法ノ契約(黙ト明トヲ間  
ハス)ヲ破テ其財産ヲ處分使用シ及ヒ故ラニ他人ノ  
是等ノ事ヲナスヲ縱ス者ハ皆背信任ノ罪ヲ犯スナ  
リ

第四百六條 背信任罪ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル各種ノ

入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之  
ヲ罰ス可シ

第四百七條 運送夫波止場取締若クハ貯庫取締財物  
ヲ委托セラレ其財物ニ係リ背信任罪ヲ犯ス者ハ七  
年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百八條 雇人財物又ハ財物ノ管理ヲ委任セラレ  
其財物ニ係リ背信任罪ヲ犯ス者ハ七年ニ止ル各種  
ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百九條 官吏、銀行取締、商賈、代官、商業代理、代辦、  
牙儉、財物又ハ財物ノ管理ヲ委任セラレ其財物ニ係



リ背信任罪ヲ犯ス者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處  
シ且贖金ヲ科ス

第四百十八條 法ニ於テ又ハ契約ニ依テ我其利ヲ保  
護ス可キ人ニ不正ノ損ヲ蒙ラスルニ至ル可キヲ知  
テ詐欺罪ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ  
贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

第六十六 家資分散ニ關スル罪

○佛蘭西

第四百二條 商法ニ記スル場合ニ於テ倒産ノ罪ヲ犯  
シタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ  
詐偽ノ倒産ノ罪アル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可  
シ

通常ノ倒産ノ罪アル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨ  
リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第四百三條 商法ニ記スル所ニ循ヒ詐偽ノ倒産犯罪  
人ノ附從タル裁斷ヲ受ケシ者ハ其首謀ト同一ノ刑



ニ處セラル可シ

第四百四條 手形賣買世話人及ヒ商業世話人ノ家資分散ヲ爲シタル時ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ若シ此等ノ世話人詐偽ノ倒産ノ罪ヲ犯シタル証アル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

○獨逸

第二百八十一條 債主ノ權利ヲ害スルノ意ニテ左ノ件々ヲ爲シタル分散ノ商人ハ詐偽分散ノ罪ト爲シ徒刑ニ處ス可シ

第一項

其財産

金銀爲替印及ヒ入額ヨリ額トハ他所形等ヲ云フ

モフヲ金ノ一部ヲ隱匿シ或ハ騙取シタル者

第二項

詐作ノ負債及ヒ其義務証券

金銀取引ノ爲メニ設ケタル

一種ノ證券ヲ名ノ全部又ハ其一部ヲ承諾シ又ハケテ義務ト云フ

實ト認メタル者

第三項

法律ニ從ヒ記録ス可キ簿册

日本ノ所謂大簿帳其他金銀

出入總勘ヲ有セサル者  
定帳ノ類

第四項

其出入額ヲ曖昧トス可キ爲メ商用簿册ヲ

破毀隱匿シ又ハ其簿册ヲ曖昧ニ記シ又之ヲ書替

タル者



若シ酌量輕減アルキハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百八十二條 左ノ件々ニ於テハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一項 家資分散ノ商人ノ利益ノ爲メ其分散人ニ屬スル財産又ハ價直アル物ヲ隱匿シ又ハ騙取シタル者

第二項 家資分散ノ商人ノ利益ノ爲メ又ハ己ノ爲メ又ハ他人ノ爲メヲ論セス利欲ヲ得ルノ意ニテ自他ノ名ヲ以テ詐偽ノ權利ヲ出訴シタル者

若シ酌量輕減アルキハ禁獄ノ刑又ハ二千「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

第二百八十三條 左ノ件々ヲ爲シタル家資分散ノ商人ハ過失分散ノ罪トナシ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第一項 浪費又ハ博奕又ハ相場會所ニテ商品又ハ價直アル物金銀義務ノ証券其ニ付相場ヲ爲シ許多ノ高ヲ費用シ又許多ノ負債ヲ契約シタル者

第二項 法律ニ從ヒ所持ス可キ簿冊ヲ有セス及ヒ出入額ヲ曖昧トス可キ爲メニ其簿冊ヲ隱匿破毀



シ又ハ正シク記録セサル者  
第三項 法律上ニ定メタル期限内ニ出入額ノ精算  
表ヲ作ラサル者

○白耳義

第四百八十九條 凡商法ヲ以テ論シ有罪分散トナル  
者ハ尋常分散ハ一月ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ  
詐テ分散スル者ハ監役ニ處ス可シ

第四百九十條 凡分散人ノ爲メニ益ヲ圖リ其動靜財  
産ヲ持テ出シ若クハ藏匿スル者分散ニ會シ詐テ債

主ト唱ヘ或ハ人ヲシテ唱ヘシメ或ハ債額ヲ詐ル者  
分散人或ハ他ノ人ト約シ分散會議ノ入札ニ於テ利  
ヲ圖ル債主若クハ他ノ者ト約定シ分散人ノ財ヲ過  
分ニ取ラント圖ル債主後見人ノ其處分中ニ財物ヲ  
私スル者以上ハ皆一月ヨリ二年迄ノ獄ニ處シ一百  
フランクヨリ三千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ  
第五百七條 凡家資分散人若クハ其他ノ者自己ノ益  
ヲ圖リ分散ノ物件或ハ借財引當ト爲シタル物件ヲ  
壞リ若クハ之ヲ他ニ匿スアレハ八日ヨリ二年迄ノ  
獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランク迄ノ罰



金ヲ命ス可シ

○埃及

第二百九十三條 分散シタル商人故ヲニ其簿冊ヲ隠シ或ハ之ヲ滅却シ又ハ其財産ノ一部ヲ隠シテ債主ノ害ヲ爲シタル時又ハ其書類積書ニ因リ或ハ口上ヲ以テ許認シタルニ因リ或ハ證書類及ヒ辨明書ヲ故ヲ出サ、ルニ因リ其實ハ負フナキ債ヲ負フタリト自ラ許認シ或ハ人ヲシテ許認セシメタル時ハ詐偽ノ倒産ノ罪アリト看做ス可シ

第二百九十四條 通常法律上ニ定ムル同罪ノ場合ノ

外左ニ記スル者ハ詐偽アル倒産人ノ同罪人タリト看做ス可シ

第一 分産人ニ利スル爲メ其動産又ハ不動産ノ全部或ハ一部ヲ隠シ又ハ他所ニ搬運セシ者

第二 分産人ニ利スル爲メ詐偽ヲ以テ分産ノ訴訟手續ニ参加シ又ハ自己ノ名義ヲ用ヒ或ハ他人ヲ介入セシメ偽テ分散人ニ貸セシ金高アリト述ル者

第三 他人ノ名義ヲ借り或ハ偽名ヲ稱シテ商業ヲ



爲シ此條ノ第一項ニ記スル罪ヲ犯セシ者

第二百九十五條 詐偽ノ倒産人及ヒ其同罪人ハ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第二百九十六條 分産人ノ配偶者其尊屬及ヒ卑屬ノ血族並ニ姻族ノ親其分散人ト交通スルコトヲ分散人ニ屬スル動産ノ全部又ハ一部ヲ隠シ又他所ニ搬運シタル時ハ盜罪ノ刑ニ處セララル可シ

第二百九十七條 疎忽又ハ重キ過失ニ因リ其債主ニ損失ヲ生セシメタル商人ハ通常ノ倒産人ナリト看做ス可シ

第二百九十八條 左ノ諸件ハ疎忽又ハ重キ過失ナリト看做ス可シ

第一 自ラ其商業ノ模様ヲ知り得可キ簿冊ヲ設ケ

サル事

第二 自ラ其商業ノ模様ヲ知り過分ノ金高ヲ借入レ或ハ過分ノ證券ヲ發出シ或ハ家産ヲ衰頽セシム可キ所爲及ヒ偶生ノ事ニ管スル所爲ヲ行フタル事

第三 過分ナル一身ノ費用又ハ家内ノ費用ヲ爲シタル事



第四 確固タル酬報ヲ得ス他人ノ爲メ過分ノ義務ヲ負フタル事

第五 商法第二十條及ヒ第二十三條ノ規則ヲ遵守セサル事

第六 其金高ノ拂ヲ止メタル後其家産ノ積書ヲ官署ニ出サ、ル事又ハ其金高ノ拂ヲ止メタル後其商業ヲ繼續シタル事

第七 其金高ノ拂ヲ止メタル後債主中ノ一人ニ其負債ヲ償還シ他ノ債主等ノ爲メ害ヲ爲シタル事  
第二百九十九條 通常ノ倒産人ハ一月ヨリ少カラス

二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第三百條 左ノ者ハ亦前條ニ記スル刑ニ處セラル可シ

第一 財産ヲ管理スルニ過失アル分産管財人

第二 分散評議ノ投言ヲ名ト爲シ分産人又ハ其他ノ者ト一己ノ利ヲ契約シ又ハ債主全員ニ害ヲ加ヘ已レ一人ニ利ヲ得可キ契約ヲ爲シタル債主

第三百一條 前條ニ記シタル第二ノ場合ニ於テ其罪アル債主ノ分散管財人タル時ハ二年ヨリ少カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ



〇墾地利千八百五十二年五月廿七日布告

第百九十九條 第百九十七條ノ規則ニ從ヒ詐偽ハ其

所業ノ性質ニ從ヒ左ノ場合ニ於テ之ヲ重罪トス

(ハ) 無益ニ金貨ヲ投費シ其未終ニ償フ能ハサルノ

狀ニ至リ又ハ偽計ヲ以テ産信ヲ増サント欲シ或

ハ偽債主ヲ設ケ爾他凡人ト馴レ合ヒ又ハ財産

ノ一部ヲ隱匿シテ其真量ヲ偽ル者

第二百二條 詐偽ノ刑ハ大抵六月以上一年以下ノ徒

刑トス然レモ特ニ加等ノ情狀顯然スルニ於テハ一

年以上五年以下ニ及ビ得ルナリ

第四百八十六條 負債者破産ヲ爲スニ方リ其然ル所

以不運ニ起因スル歟爾他止ムヲ得ス其負債ヲ償ヒ

得サルノ狀ニ陥リシヲ證明スル能ハサル歟或ハ

妄リニ過度ノ出費ヲ爲シ又ハ其告訴セラレタル負

債已ニ所有産ノ高ヲ超過セルヲ知テ尙ホ自ラ直チ

ニ分産ノ申出ヲ爲サス更ニ新借若クハ抵當ヲ以テ

一時之ヲ蔽フ等其所業猶ホ未タ第百九十九條中(ハ)

號下ニ記載セル詐偽重罪ニ及ハサルキハ之ヲ輕罪

トシ三月以上一年以下ノ重禁獄ニ處ス可シ但シ具